官板

海外新聞別集

下巻

海外新聞

西垣文庫
文庫10
7271
2

文庫10
7271
2

西園文庫

海外新聞別集 文久二年閏八月印刷

原本紐約新聞第百零三號 千八百六十二年第五月二十四日即ち文久二年壬戌四月二十

六日ものり

北格阿利納野戰の事

我畫工スケルゲ甲比丹モルリスの火攻臺場を築んとて働ける徒の立退きさる有様を畫きさる圖の裏よ早書を以て記しさる數十行の書付よ左の事を載せさり偖敵方のコロ子ルホアイトを其臺場の位置を委しく知り且其働く徒を妨げんと欲して屢暴母丸を打掛さり是より雙方とも士卒よ下知し或を譽め或を罵りて勇氣を引立さり折りも番兵

5743

も砂山の頂より竊に其有様を見て打掛よと下知するや否マコン砦の大炮より火煙の起るを見て各手早くビーティン軍隊の名を爲して最も近き砦に立退きさりを以て漸く危難を免れ頭上に落來る暴毋丸に當れる者の外も手を負ひさる者更に無し但マコン砦の他の圖を前の新聞紙に出せり

第五月十一日夜十一時にモンルー砦より出せる軍事書記官の使節ノルホルクを奪ひさる由并にメルリマック船の破壞せるを告知せしと左の如し

ノルホルク并にポルツモート及び海軍所も皆予等の有とかれり偖十一日の朝九時軍兵悉くウィルロイドバイ.ポイントに著岸しけれど大將ウール其兵都合五千を率ひてノルホルクに攻寄せさり此時軍事書記官ヒュエスも大將に附添へり

著岸せる地より凡五里程にしてテンヂルスクリーキ河に架せる橋あり其對岸に敵軍の臺場あり之に向て先に進める二組の歩兵に稍鐵炮を打掛ひしが勝ざさりとや思ひけん敵軍其橋を燒拂へり故に我軍兵直に進むと能もざれど又五里の廻路を爲して進みさり午後五時に我軍兵ノルホルクに近寄りけれど敵方の百性總代某出來りて降參を請

ひ且其式を正して都府を渡しさり因て我軍兵府内より進入り遂よノルホルクを乘取りさり此時大將ヒールも軍事宰相とあり其地より留りて取鎮めさり

數時の間見へさる焔も薪木の燃へさるよて都府および海軍所の燒拂をれさるよあらず

大將ヒヂルも戰もずして已の士卒と共よ退きさり

此夜十一時よ大將ウールも書記官ゼースと共よ凱旋せり

又此日の午後よ指揮官軍兵を出し占士河(セームス)よ遡る由を聞けり

メムヒスよて敵の鐵張船敗北せる事

第五月十日密斯昔比(ミスシツピー)河濱よ在るピルロー砦のベントンと云へる旗船の海軍書記官甲比丹ダヒスより次の説を得さり

今朝敵軍の既よ用意せる海軍の戰爭始れり此時敵軍も八艘の鐵張船よて内四艘をラム船と稱して敵船を突破の為よ設けさる船あり其船迅速よ走來りて一時の間合戰止ざりしが敵軍遂よ二艘を奪をれ一艘も砦より打掛けさる鐵炮を避んとし最も速よ走りさるを以て沈没せり我船隊の中六艘此戰よ臨めり其中シンシンナチ船をラム船よ當りて損じされども今度の戰よ用ゆる能をざるよ至らず甲比

丹ステムプルを拔羣の功を顯せーゲ深手を負ひさりとゞ
ベントン船も損ぜず第十四號の加農船をセコンドグレゴ
リーの差圖よて甚ざ勇まーき働をかせり折ーも敵軍船隊
の指揮官をホルリスンかるべー

コリント近傍合戰の事

第五月九日午後典揮西ハルミングトン近傍の地よりマシ
ル.ゼ子ラールハルックよ告知らせーと左の如ー
敵軍の精兵二萬人ハルミングトンの外よ置きさる番兵を
押破りて我陣所の前を流る河の對岸よ屯するブリゲード
隊よ襲掛れり時よブリゲード隊も五時の間防戰ひされど
全軍を率ひて河を渡らずんゞ彼等を救ふ能ゞとて我全
軍河を渡り遂よゞを助け隊伍を正ーて此岸よ立戻れりさ
れどブリゲード隊も勇氣盛んよーて退くを甚ざ快くも思
はざりー
敵軍已よ河を渡るべき下知ありーろ此事遂よ行もれざり
ー
予未ゞ味方の手負討死幾何かるを知らざれと極て數多か
るべー又敵兵多くも砦を構へざるを以て甚ゞ艱めり況や
其一の臺場も全く打毀されて用もべからず且其歩兵隊も
數度追戻されさり又予の指揮も最も速よ行屆けり但ハル

ミシグトンヨリコリントヨリ北西五里ホリ此時戰ひさる軍兵セプリンメル及びバルムルのブリゲード隊のみホリ

費爾治尼亞路法の事（ヒルギニア）

今北部の軍卒費爾治尼亞ヨ赴くヨ就ても次の表肝要さるべし

ノルオルクヨリ	理治門的（リチモント）近	百零六里
ソッホルクヨリ	同	八十五里
ケープ・ヘンリーヨリ	同	百五十里
ヘムプトンヨリ	同	九十六里
モンルー砦ヨリ	同	九十九里
ヨルクトヲンヨリ	同	七十里
ヰルレムスビュルクヨリ	同	六十里
フレデリッキスビュルグヨリ	同	六十五里
華盛頓ヨリ	同	百三十里
ウインチュストルヨリ	同	百五十里
ゴルドンスヒルレヨリ	同	七十里
ストヲントンヨリ	同	百二十里

ヰルレムスビュルグの戰爭

ヰルレムスビュルグを攻取りさる合戰及びヨルクトヲンヨ在る敵兵第二砦の合戰セ最も盛んホリとす偖敵方のヨル

クトランヨ設けさる砦より其諸具を竊ヨ運び立退ゝんとせし時偽計を設けて之を隱せしゞ巧者かる指揮官よりて之を探索せり尤其偽計も銃兵數十人を殘置き立退きさる後ヨて騷しく號令を傳へ加農炮を放つべしとかり其計の如く已ヨ立退きさる後數十人の敵兵劇しく鐵炮を打掛けさりしゞ此時ナポレヲンふる者之ヨ向ふも無益かるを知て直ヨ已の軍卒を敵兵の立退ける道筋ヨ差向けさり然れども其道筋ヨ出る頃ヨも右數十人の敵も逃去り且敵の大軍も既ヨ理治門的の方ヨ退けり夫より我兵勇ましく北るを追て終ヨ追付さりベインチュルマンの兵卒も此敵兵を甚ど急速ヨ追散らしゝルレムスビルゲ古邑の近傍ヨ設けさる第二の砦を襲ひさり予等の軍兵も凡八千人又討手の來るを防んとて必死を極めさる敵の後陣も三萬餘人加之爰ヨも大炮を備へさる臺場あり而して予等の軍卒も兵粮乏しく且終夜大雨ヨ身を濕して疲勞甚ざしけれど更ヨ厭へる色かく今朝合戰ヨ取掛れり頃て大將ゴロフルのブリゲード隊真先ヨ進みて戰を始めけれもそヨ續き大將ペテルソン且ックルスブリゲード隊進んで援兵とふり勇を振ひ戰を挑みて敵軍の勢ヨ屈せざりしゞ今も兵粮乏しきのみからず各レヂメンド隊の火藥盡き士卒の疲勞極りて三人

より一人からでも敵軍より攻掛るものあり而して敵軍も愈勢
より乘ずて群來れども猶屈せず死を決して挑戰ひ一歩も其
地を退ろず又臺場數箇所に警固する人馬ふきを以て敵兵
の為より奪れるゝと雖も戰を止めざりしナポレヲンのワー
テルローより於る如き此勇猛なる大將ヘインチルマンも急
使を以て後軍の兵より早く援くべしと言遣しさり因て後軍
より緬(ノテ)のベルリー烏遮爾些のケル子ー及ひ其將ヘンコック
來り自ら立派なる銃鎗を以て敵砦の右を攻め各大より戰
ひ敵軍を追散して其砦を奪取り其夜の中より悉くウルレム
スビュルクを立退しめさり

偖も悲歎すべきは此日の合戰より出さるブリゲード及びレ
ヂメント隊の兵卒最も夥しく損じさる事なり第一レヂメ
ント隊(シヲクルのブリゲード隊なり)の中より討死手負の者逃去る者二百
五十人あり其中討死は七十七人第五レヂメント隊も討死
四十九人第一馬洩朱些其(マツサキ)レヂメント隊も討死四十二人手
負百二十三人なりこを他の大合戰より比ぶれは歐羅巴各國
の最も盛なる戰よりも及ばざりしバラクラハ(俄羅斯の一邑)のラ
イトブリゲード隊の戰爭と雖も比ふるに足らず墺地利と
佛蘭西と雙方必死より戰ひさりし時は士卒の討死手負三萬
三千人なり八萬五千人より滿さざれば今度の戰爭と比すべ

ならず又もアルマ河（俄羅斯の大合戰より英佛の軍兵五萬一千餘よて其討死手負一萬五千を出ざれば）ウィルレムスビュルグよて戰ひさるブリゲード隊の三分一より少しされど誹謗を好む英人廣言を好む佛人及び愚人も合衆國の兵士勇ありて能く熟練し且堪忍あるを稱するを厭へり

ウィルレムスビュルグの戰より敵軍の損失を甚だ大かる事よて數へ難し尤も彼等勇を振ひ必死の戰を爲して困苦を極めさるもを之を見さる證人タライビュン（レジメント）隊の頭取の書狀より明かり

其文より云く敵兵ウィルレムスビュルグを退きさる時よも手負人の滿さる寺社學校諸役所を其儘よして立去さり又手負人を乘せさる車も遁出しされど昨日合戰のありし所ゝよて悉く我鐵炮より擊破られさり此時寸の見さる最も哀むべき有樣もヘンコックの陣所より近き畑より横れる八十二人の手負かり又ヘインチェルマンの陣所より近き病院よも手負人夥しく入込み其中窓の下より切離されさる手足數多捨去り且其屍累ゝ乎として窓際より及べり亦府内よも六百人の手負人各已の外科より賴て療治を受さる有樣かり然れども火曜日の六時後よも其外科大抵遁去りて僅より兩三人殘れり此手負人も皆熱を煩ふ者の如く甚

ど渇すると見へて水を請ひ哀れなる聲よて何日醫師來るやと尋る計かり斯く苦痛せる者の傍よも既よ息絶さる者も横り其餘も苦みて皆息絶へさり

予等敵軍の追來るを防んとて設けさる十三の砦台より大將ヘンコックの銃鎗を以て攻寄せさるもヰルレムスビュルグよて戰爭中の最も盛かるものとす尤ヘンコックゲ不意よ敵砦の右よ顯れ大炮を打掛さる時も勢盛んかる敵の軍兵も大よ碎易して之を防き砦を全ふすると能もず此時最早午後よて我軍兵等も大雨の頃沼澤或も深林を越へて進みけれど身を露し且兵粮乏くして疲れさり

但午後五分時よも予等敵の大砦を去る僅六十ヤールドよて數丁の鐵炮を打掛け又數十の軍勢を以て敵の本陣よ退く道筋かる北方の深林よ向て打掛さり此時大將ヘンコックも歩卒よ下知して軍列を整へ原野の所々よ備へさり

又敵兵の捨去さる砦よも我旌旗翻飄として飄りヘンコックの率ひさる歩兵も列を正して大將の下知を待てり合圖を主る將士第三砦の胸壁より合圖を為す旗印も遥よペーデ砦の火烟の中よ在るを見る又是より遠くフーケルゲ指揮せる軍兵等敵と戰ひて既よ酣かるとも鐵炮の

響と白煙の颺るよて知るべし予未だ斯く盛んなる戰場の有様を畫ゝきさるを見ず又ヘンゴクゞ大炮隊よりも一時の間速よ打出せしゞ之よ當らざる者なし敵砦よりも我兵よ向て打出せるよ少なからず敵の歩兵もフーケルの兵と戰ひしゞ我兵隊未さ急よ敵砦よ攻寄すると能もぎれど敵方より打出せる炮丸の多く中らざる地よ陳取して敵の歩兵寄來るを待受さり頓て敵兵速よ押寄せしゞ之よ先ごちて軍事よ達せる人の心付し畏るべき事あり四時後半時の間ち合戰忽ち歇て戰場殊よ寂然さり我右軍も是と對せる敵兵も皆勵戰ふとなく唯右軍よて少く銃聲あるを聞くのみ故よ我軍中よても敵兵疲れて退きさると思ふ者多けれど或人云く此の如く勵戰ヘるイロン不圖深林中より我右軍ヘ攻掛れり且其左右よも敵兵の俄よ引退きさるも實よ畏るべきとよて必ず我不意よ出て襲來るとあらんとかり果して敵の騎兵一バタ之を援くる爲よ歩兵三レジメント隊あり其勢實よ畏るべし

一年前よもビュルリュンよて敵の歩兵四千人不意よ寄來りて戊兵一萬八千人を擊破りさる事有り然るよ今も我新英蘭人も亦善く戰ヘり眞よ大將ヘンコックも此危急よ當

べき名將ふり此名將を我歩兵をして寄來る敵兵に向ひ一文字に備へされど敵兵も益勇んで進來りけれぞ我兵より一度に五千挺の鐵炮を打掛さりされども敵兵も益迫りて我兵を靡にせんとする勢あれど列を亂して我兵の前二百ヤルヅに近寄れり此時ヘンコックも已の勇猛ふるを衆人に示さんとて已の帽子を取り士卒に下知して汝等小銃に玉藥を用意せよと云ける刻頃て我軍兵盡く進み敵に向て打掛さる勢恰も鎌を以て穀穂を苅るが如し故に敵兵大に混亂して砦の後に退きさり故に我兵終に

ヨヰルレムスヒュルグの戰に勝利を得さりされど此時大將ヘインチルマンを援くるとかく或も來援くると甚さ遲ろりし諸將ども之が爲に汚名を蒙る有れも能之を熟考すべし總大將マクケルランも戰の鎮る後漸く此に來れり彼若五時も早く來らば此日の合戰全勝を得るからんされど古代のナポレヲンも常に我陣前に在りし

穿ルレムスビュグ戰場の事

ヰルレムスビュルグの戰も敢て勝利を得んとにもあらず戰疲れて退ろんとせる我兵を援くる爲ふり故に敵兵此戰に敗北しされど亦少も彼の望を得さるともあるべし又大將ヒルム子ルも何の故を以て大將フーケルに援兵を送れると

遲ゝりしや必す吟味を受るとあらん

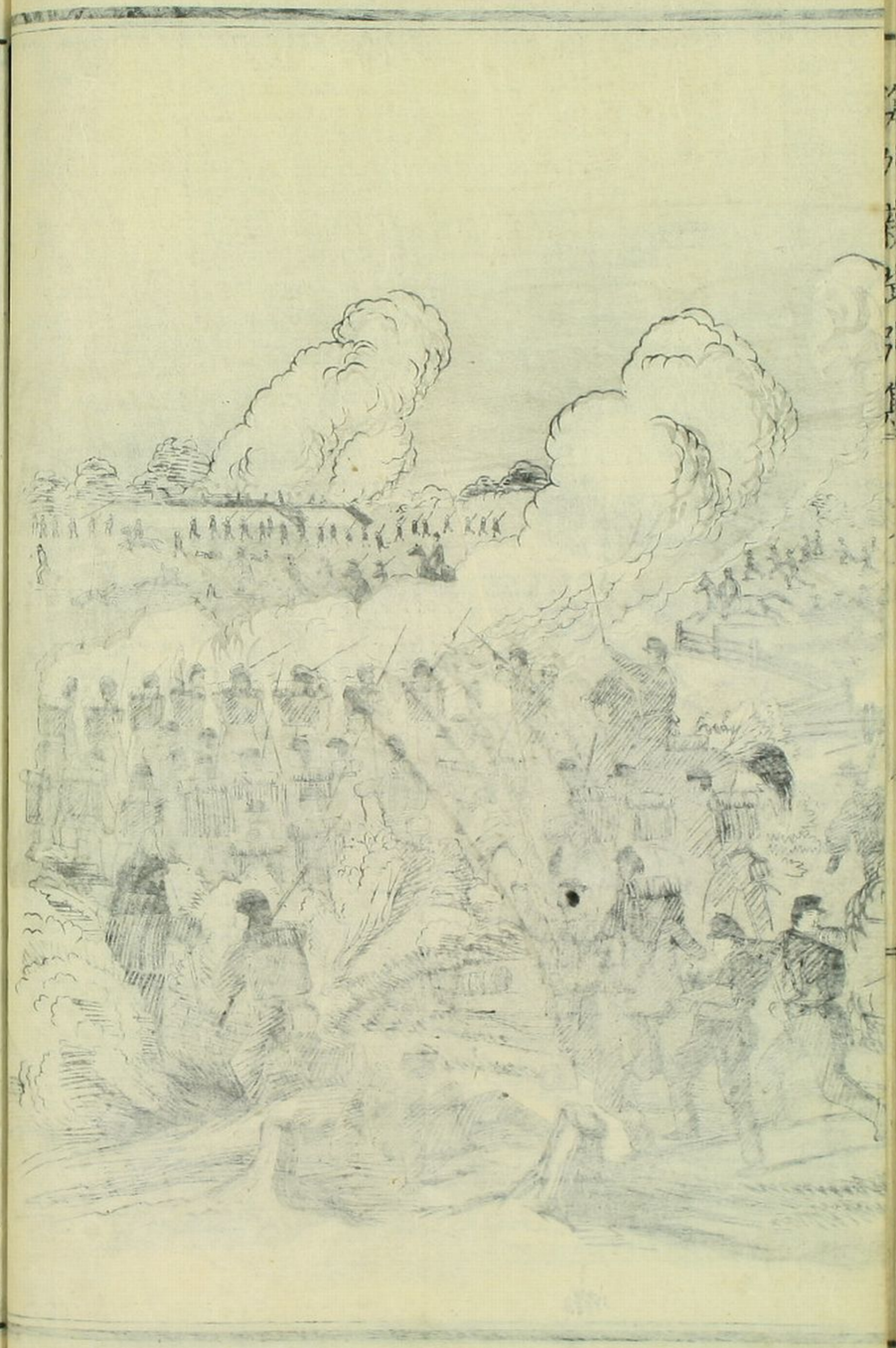
予等多くの告文中より此大戰の最も切要なる所を撰出して左に記す

ヰルレムスヒュルグの南二里にしてアダムスと云へる人の別莊あり第五月三日の夜大將ヒュムチルヘインチュルマンケイス及びこれに次く諸將等此村家に陣取りより翌日の早朝に至り敵陣を悉く探索せしに敵の防禦も九砦あり其四も占士河よりヰルレムスヒュルグの柵道に至る迄列らなり其一もヰルレムスヒュルグに進む道筋を防き其四も柵道より占士河まで列らなれり又アダムスの別莊を距ること半里許

第五月六日費爾治尼亞のヨルク占士兩河の間にあるヰルレムスヒュルグの大戰
ゼバスケル畫

第五月六日
費爾治尼亞
のヨルク占
士兩河の間
よあるゲル
レムスビュル
グの大戰
ゼバスケル畫

一も ウルレムスビュルグよ進む道筋を防き其四も柵道より
占士河まで列らふれり又アダムスの別莊を距ること半里許



よりて敵の根城なるページ砦あり或人之を誤てマグレウドル砦と名けさり此砦も高地より據て他砦より迫らんとする有様恰も鍵の如し又アダムスの別莊より二三百ヤルヅより して小河の岸邊より續きさる深林あれども戰場も長三四里廣半里なる小丘あり目を遮る者なき廣場よりて半も麥を種付さり故より戰場の形狀を畫くより最善き所なり其中央も陣所の前面より當れり又戰場より北方なる敵砦之後より亦深林ありて唯イルレムスビュルクより近寄し所のみ其缺けさる所あり

同我兵を先より進める事

早朝より第一大將ヒム子ルも我兵を指揮せり尤先より進めるも大將スミット及ひフーケルの指揮せる兵隊よりて騎兵且大炮隊之より添へり又コウチ及ひゲレーの指揮せる兵隊も此所を距る數里よりて所々より陣を取り先より進む兵の後備を爲せり此時一萬八千人より過ぎざる兵卒等夜間深林より入込みて敵兵より對せんとせしが是爲し難きをあり

朝日の昇る頃深林中より兩陣より互より鐵炮を打合けるより敵砦より時々破裂丸を打出せり是より於て我諸將等相議し先偽て敵砦の中央を攻め其後急より左右より押寄せて奪取らんと約せり九時より及んてフーケル兵を進め深林中より到り廻路を爲し先我右より在る敵の小砦を攻め夫よりページ砦の左を攻めんとせり

同我兵鐵炮を列らね戰備を爲す事

フーケルの兵も殆ど通行し難き路を進み占士河を距る一里許よりてコルレジと云へる小河を渡り敵の小陣屋前より在る深林より入込さり此時我兵隊の陣取せる有樣を下より示さん

左より大將ゴローフルの指揮せる第一第十一第十六馬洩（マリサ）朱出斯（キュセッツ）ブリゲード隊且第二牛含布什爾（ヲウハフサイル）フリゲード隊より中央より大將シクレ人の指揮せる紐約第一第二第三第四

第五エキセルシヲル・ブリゲード隊あり
右よを第五第六帝七第八烏遼爾些ブリゲード隊あり此所
よブラムハル及びスミットの率ひさる大炮隊あり此兵隊を
林際よ進みて不意よ鐵炮を打掛け大よ敵を驚ろーけれど
敵砦より打出ーされど我兵深林の蔭よ在るを以て大害を
受ざりー
十二時の頃を我兵曠野よ陣取ーて一度よ敵砦を攻むる用
意を爲せり折ーも敵の小陣屋防禦の兵甚ど少かけれを我
歩兵進んて鐵炮を打掛けーよ其守兵等皆大ふ恐れてペー
ジ砦の前後よ退きさり此砦よと敵の大軍集りて頻ふ大炮
を打出ー且砦後の林中及び左右の曠野よ歩兵騎兵大炮隊
を備へさり時よ我大將フーケルの縱隊を先敵砦の中央を
攻め夫より其左右よ轉せんとせり
其外終夜の暴雨を侵ーて進み戰ひーとも恐るべらず

同エキセルシオル・ブリゲード等の事

林中及び林際よて戰の方ヶよ酣ふりー時我エキセルシオル
ブリゲードをよび紐約第七十客兵を最力戰ーて大よ兵士
を失ひエキセルシヲル・ノリゲードのみよて死傷凡五百人
よ及べり一時の頃大將ペッキのブリゲードをリースミルス
より十二里の間暴雨を侵ーて進みけるよフーケルの兵既

より戰勞れされた大將ペッキのブリゲードを前備と為せり其後二時の間勇を奮ひて決戰し二度まで敵兵より攻付られしも終より我備へ一地を退くとあし折しも邊西威業の第百二ブリゲード敵を目掛けて真先より進み鐵炮を打掛けて退や否同第九十八ブリゲード之より代て進戰ひけれた第百二ブリゲードも再び進み力を合せて戰ひさり此時デトロブリアンドの卒ひさる紐約第五十五ソウアフスも左方より進み暫らく戰ひて引退き紐約第六十二兵隊も敵兵を遮り右第百二および第九十二兵隊も横間より敵兵より打掛けさり此時紐約第五十五兵隊も陣を立直して第六十二兵隊を援くる為より進み且邊西威業の第九十三兵隊進みて道路より臨める敵の炮臺より鐵炮を打掛け遂より敵兵を諸方より追出せり

大將ヘンコック率ひさる兵隊及び戰功の事

大將ヘンコックも兵を率ひて敵砦の横より進む命を受さり其ブリゲードも威業翰清（ウイスコンシン）第五編第六邊西威業第四十九紐約第四十三ブリゲードエイリスモットの指揮せる大炮隊の一部をよび鳥遮爾些の第一レジメントよて總計四千七百人かり而してヘンコックもフーケルの戰へる處より二里許隔りて陣を取れり此兩將の間よもページ砦および半里毎よ敵の二小砦あり又ヘンコックのブリゲードも一里許險阻か

る路を經て敵兵左端の北ヒフチー.エクル.ヘートよ進めり
爰よ敵兵ヨルク河よ落る小川よ狹き土手を築き且其土
手よ對して畏るべき備へありされど我兵恐る色なく直よ
其土手を越へて敵の胸壁よ登り僅二三分時の間よ我旌旗
を其高五十フートの地よ飜すよ至れり敵兵も既よ我兵の
近寄るを見て皆逃去さり此よ於て我兵士も一齊よ凱聲を
揚け左よ向て急よ進み狹き路を三百ヤルヅ程行きけれど
忽ち戰場よ出て遙二里を隔て彼方よフーケルゲ敵兵と戰
ひ且其敵砦よりフーケルよ向て大炮を打掛さるを見さり
我兵と敵砦との間よ亦敵の二小砦ありけるゲ其守兵も我
兵の進を見て速よ退き其大軍と合せり
此時日已よ一時ふりしゲ大將ケイス馬よ鞭うちて馳來り
ヘンコックよ云ひけるも予士卒を指揮する爲よ來るよ非ず
我兵敵砦の左を攻むるを見んとおり頓てヘンコックの兵進
みけれも敵再び小砦を捨て退きさり我兵忽ち其中よ進入
りて我旗を揚けさり其外我兵とペーシ砦の間よ一小砦あ
りて敵の散兵其前面よ備へり是よ於てハンコックも八炮車
のりムブル（炮車の一部よて發せり）を外して發放の備を爲し相
距ること六百ヤルヅあるペーシ砦よ向けて五秒時の間頻よ
打掛さり折しも陰雲西方より晴渡り白日爍々として戰場

に輝けり其有様實に美にして且恐るべし何とかれも敵に
り奪ひて我旗を揚げたる砦あり又ヘンコックのブリゲード
も戰備を爲し火煙に包まれたるべーじ砦も其中に聳へ此
と同じ方角にも白雲の中より絶へず火焔を噴出し彼此數
千人の軍勢等死地に入るゝと思ふゞりまて大小炮の響
き絶間なく實に死亡の祭日にも喩ふべしヘンコックの大炮
隊も一時餘の間早打に發ちけるが敵砦よりも之に應して
打掛たり而して三時半頃少しく戰の休時ありて譬へも暴
風雨の來る前に物静かなるが如しされど四時に及んで敵
の騎兵寄來り又左右より其歩兵三レジメントを組み列を

を正して進ントしたヘンコックに對して歩兵を備へり此時
敵の騎歩兵も我兵を鑒にせんとする勢にて攻掛り我大炮
の火焔を恐れず一人僵るれば他人之に代て進み既に近寄
されば我歩兵鐵炮を打掛たりしに敵も少も恐る色なく益
近寄たり故に再び雨の如く鐵炮を打掛しが猶進むを止ざ
れば敵も我兵を鑒にせんと思へるとぞ見へふける

我兵士悲く裝藥せる事

敵兵の我前二百ヤルヅに近寄たる時大將ヘンコックも馬に
乘り進出て腮子を脱ぎ兵士に向て裝藥せよと命せり其聲
未だ終らざるに我歩兵敵を目掛けて進み手語の勝負とな

り銃鎗よて決戰し勇を奮ふて叛心と忠義との勢を比しさり頓て敵兵大よ敗れて退きけれど我兵勝よ乘りて益進み終よウィルレムスビュルグの戰よ擊勝さり偖も尾得路（ワーテルロ）の大戰以後も一度よ大勝利を得さるを此戰の終よ及んて大小炮を打掛さる勢よ過る者ふし遂よ我兵も其翌朝ウィルレムスビュグよ入込さり

敵兵人數の事

此戰よ出さる敵兵の數も甚さ知り難し我兵の生捕し者も其數或も二萬或も三萬許と云ひて聚とし之る說ふしされど凡此戰よ出さる敵兵も大將アンデルソン北格阿利納第四第五第六第九レジメント隊を率ひて一ブリゲード隊を成し大將ヒル費爾治尼亞第一第七第十一第十七レジメント隊を率ひて一ブリゲード隊を成せり又祿細亞那（ロイシアナ）第十四雅拉巴麻第十四レジメント隊且ウィルヨッキスの率もる全ブリゲード隊雅拉巴麻第四第六第八第九第十第十一第十二費爾治尼亞第二十四福落里得第二祿細亞那第十四第十七密斯昔比第十九レジメント隊各加りさり尤其終の三レジメント隊も大よ手負討死あり密斯昔比第十九レジメント隊も其數千五百人と云へる者よて大將ロングストリートの指揮せる兵ふり又大將イールレーレインス兵を率ひ或

モジンストン自ら兵を率ひさる説あり又マナッサスの戰
よて有名ふるラダムの大炮隊も亦其中ゟ在り

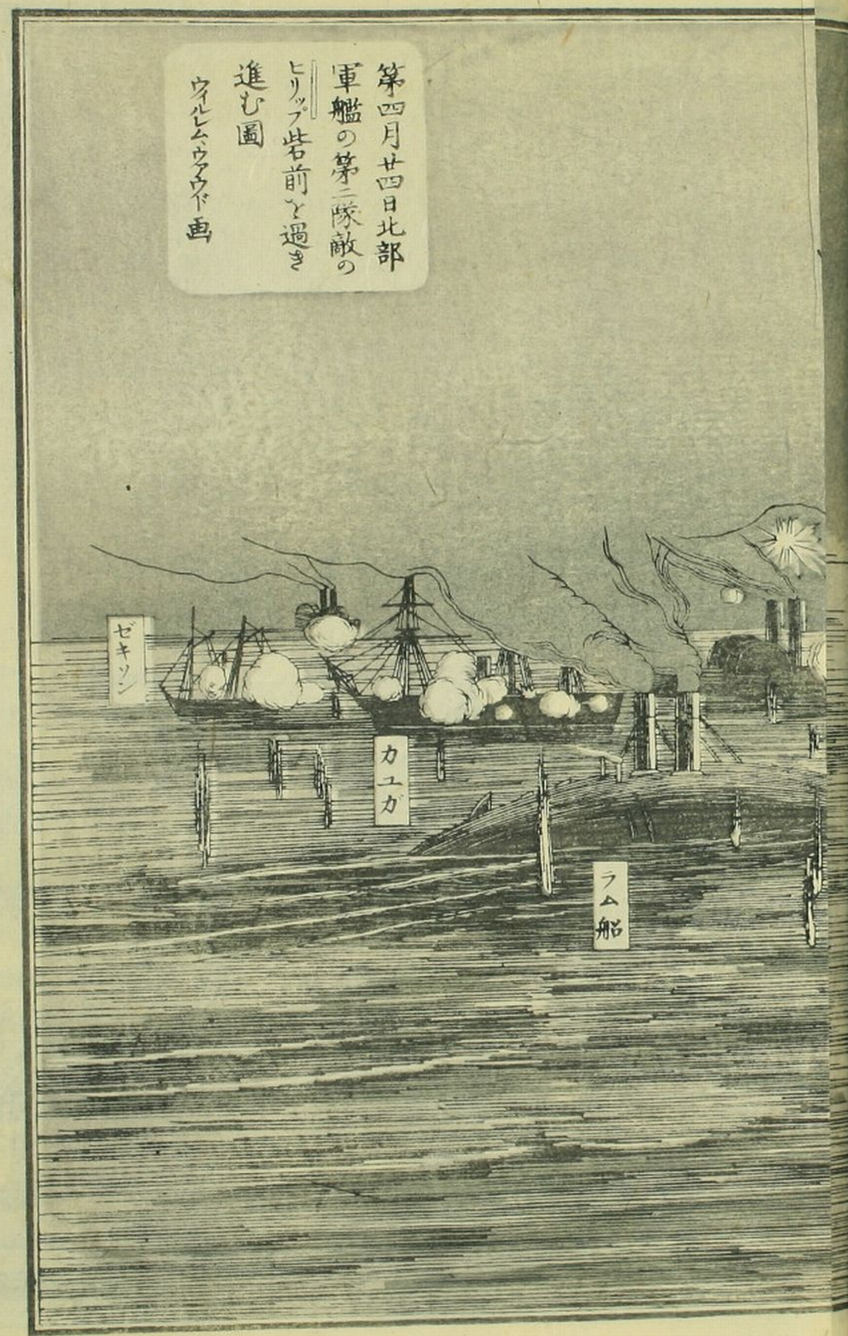
死傷員數の事

ヰルレムスビュルグ合戰の如く銃鎗の鋒ゟ迄得さる勝利も
雙方共ゟ手負討死の者多うらざるを得ず
敵方も手負千零く五人討死五十人其外ゟ生捕らるゝ者五
百人尤討死の中ゟもブリゲヂール、ビチラール二人および
横隊將校數人あり
我兵の損失も亦少ふらず殆んど敵と同樣ゟり我將士ゟ
も手負討死の者數人あり且エキビルシオル、ブリゲード隊
の將士二三人生捕られさり
大將ビュトレルの巴里庭莫ゟ入さる時敵方の紐呵連尼斯新
聞ゟ之を誹りて云くヒュドレルもケレスセントシチー（加里福尼）
のシントカルスと云ふ旅館の近邊ゟて小店を開きピ
ケイユヲヒトレルと名けし剝工（カシコイ）ありと此度ビュトレル紐呵
連尼斯ゟ攻入りされど既ゟ已を誹れる人ゟ害を為すや否
計り難し

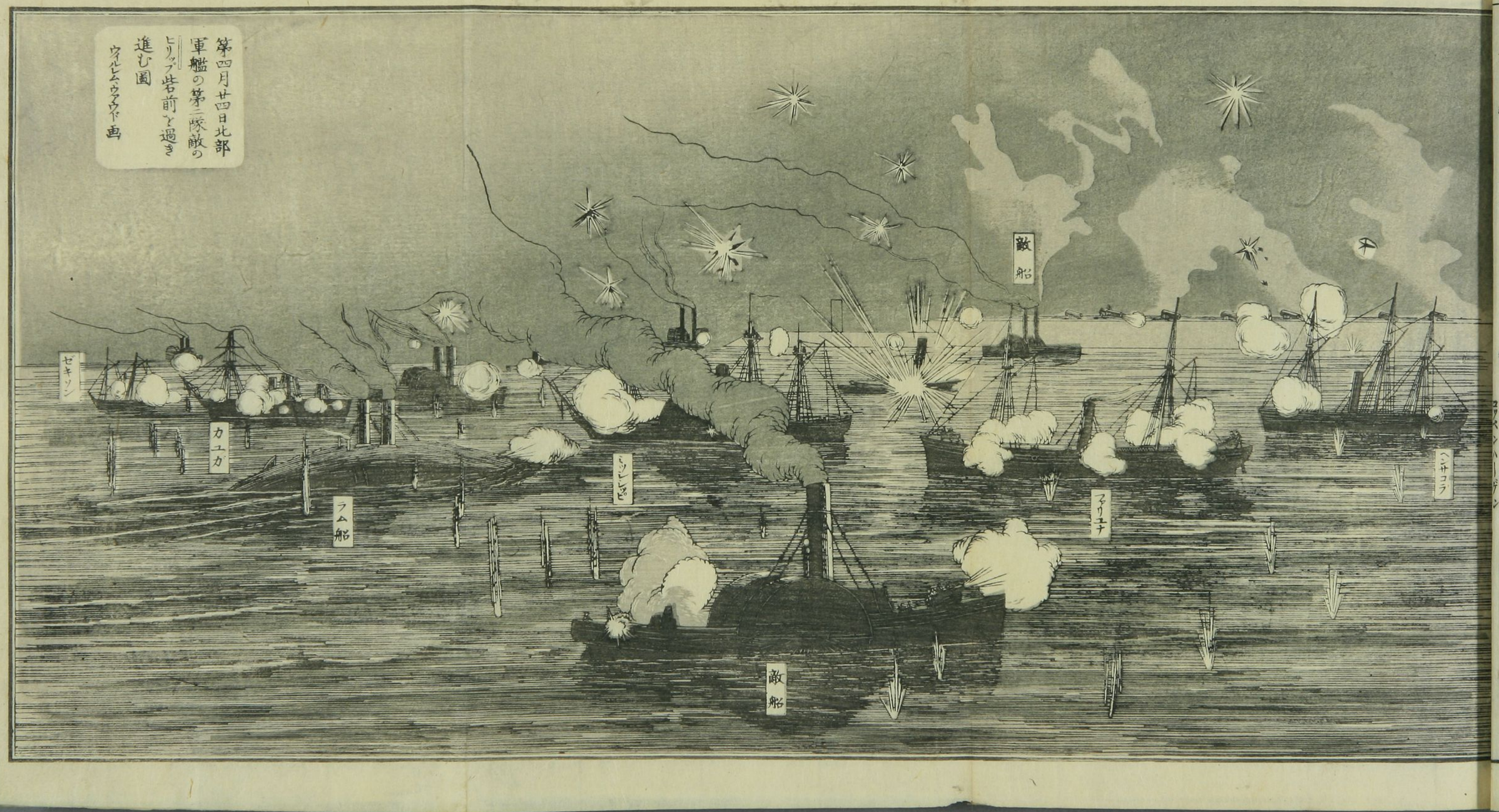
密斯昔比河口大戰の事

斯ゟ密斯昔比河の大戰ゟて紐呵連尼斯の敵砦を擊破り合
衆國南部の都も再び北部の手ゟ落ちさるゟの告文を多く

得さり折しも早朝より敵を數砦より二百挺許の大炮を備へ水底より鐵鑽及ひ多くの舟行を礙ゆ可き柵を設け且其力量何程とも度る可らざる鐵張船を多く列ね近頃發明の力を極めて防禦し地獄の責めも斯くあらんと思ふ許りよ怖しき備を爲しけるゞ我軍艦も少しも懼る氣色かく其間より進みさるより實より豪勇よして其有様を寫し得るとも能ゝざる勢ひおり偖千八百二十二年第四月二十四日の早朝より朝日と共より輝ける此軍艦を再ひ見るとも實より心地よしとも稱すべしされど昔西班牙人ゞ日巴拉大(デノラルタル)を攻め納爾森(ネルソン)ゞタラハルガルより勇を奮ひ哥本哈干(コペンハーゲン)より寇して火攻より



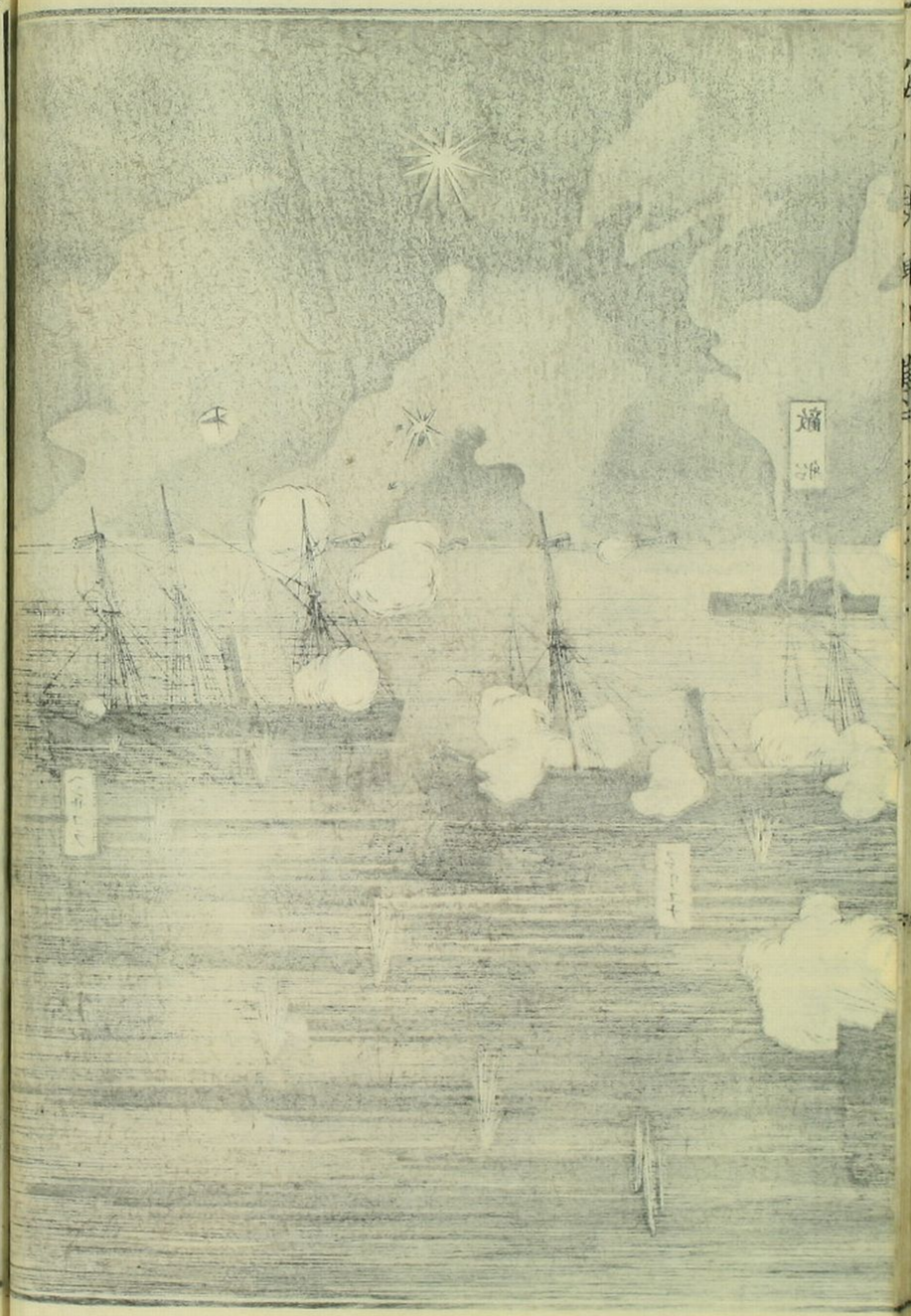
第四月廿四日北部軍艦の第二隊敵のヒリップ砦前を過き進む圖
ウイルヒムウアウド画



第四月廿四日北部軍艦の第二隊敵のヒリップ砦前を過き進む圖

ウイルヒムウウド画

ダタラハルガルよて勇を奮ひ哥本哈千よ冦して火攻ま



とる戰抔を此戰より比すれば云ふ足らざる所あり今ゼクソン砦の大炮のみよりても昔時大尼（デネマルカ）の軍艦も半時の間に海底へ打沈むべく今コモドールポルトルの珍奇なりとて破損なく奪取んとすれども遂に破損に及びさるホルリンラム（船種の名）のミよりても昔時納爾森の率ひさる軍艦又も佛郎西の全軍艦と相敵するに足るかるべし

我軍艦も常に牆及び他の船材を緑樹材にて蔽ひをなし船腹側底に泥を塗り大なる錨索を船に絡ひ敵方の大炮手をして目當にするに宜うらざらしめ潛に兩岸の敵砦炮艇鐵張の浮臺場又異形なるラム船の間を過きしと覺へしの忽

ち我臼炮船より打出しさる破裂丸も天を掩ひ敵船の上より降るを譬へも平野の大府より雨ふり又も南西の大河（密斯昔比河を指云ふ）の底より旋得納山の破裂して火漿の所くより散亂するが如し

偖も其人數夥しく勢猛けき敵軍を襲ひし我軍艦の勢も實より極て盛ありしとぞされど指揮官の云へる如くアリユナ船も敵船および炮臺の巣中より入込み敵船より打出しさる炮丸を避け逃るゝを恥辱とし力を極めて船の雙方より敵より向て炮を打掛け大より敵の害をおし今も我船の甲板より水押入れども止むる氣色もなく打掛くく攻けれも終より我船も海底よりぞ沈みけるゝゝる勇氣も歷史中より記すとも其實事を詳より盡すをを得ざるべし

畫工も工みより寫出すとも筆頭の拔かれも其戰場の摸樣を寫すのみより其場の心地より趣を寫すを得ず若又我國歷代の戰を工みより畫く人あらば此密斯昔比河の大戰を畫うんより必ず力を盡さざるを得ず

我軍艦敵砦の前面を過きしを及びアリユナ船の力戰のを甲比丹ホルトル及びボックスの告文より詳より此下より載せさり

敵砦我兵より降る事

我軍艦敵砦を過きし翌朝予敵將コロネルヒギンスに書を送りて盡く其砦を我兵に渡し降參するを進めけれども彼之を承允せず

廿七日に再び降參を進むるの書を送りけれど翌廿八日に敵將より遂に降參の返書を得たり乃ち兵を率ひて上陸し數砦を受取り且此度敵の降參に就て數箇條の盟約を取極め此數砦に北部の旗を推建てたり

然れども此敵兵等の力を盡して砦を守りたる忠義も最も尊敬するに足るべし故予此數人を取扱ふに最も心を盡したり

右戰爭の時敵の三蒸氣船もゼケミッチルの指揮する所なれど其砦にある敵將も此船に關らざるを以て其將士の所爲も我が知る所にあらずと云へり

予又敵砦の將と暫時の間互に戰を歇むるの證として旗を贈りし時上に載せたる敵船の舟人も十六挺を備へたる鐵張の浮臺場を上流の一箇所に牽上げたり其後予ハルリートレーンの船中にて敵砦の將と降參のために付數箇條を取極んとしたるに折しも敵も浮臺場に火を係け我船に向て流さんと告くる者あれば予又降參したる敵將に此浮臺場も多く火藥を備へたるや又も火藥を込めし大炮を備へた

るやを問ひけれども彼も海軍將士の爲すをも賞て知らず
と答へさりされど敵砦の將も海軍の將を卑しむと見へて
ろくも對へしおるべし是より於て予敵船を見廻る人を命し
降參せし敵將と絶へず會議しさり兒角する間より敵の浮臺
場も我船より向て流れ來りしゞ既より熱氣增長して炮も破裂
し丸も河上より落ちさり其夜の二三分時を歷ると覺しき頃
浮臺場破裂し其碎片河上より散亂しヒルップ砦中の一人を傷
きさり若此浮臺場をして我船より近づき破裂せしめむ我船
も必すゝろ爲より盡く破損して微塵とふるより至ら又ん予敵
砦を奪ひし後ハルリートレーン船より打乘り敵の蒸氣船より

向て進みけるより其一船も猶敵旗を揚げさり予直より此船より
砲丸を打掛けよと命しさりしゞ速より皆降參せり其船中より
も海軍將校數人及海軍大炮隊二コムペニーあり
予斯く敵を降參せしめ暫時戰を休むるの證として既より我
旗を贈りとるより今又我船より向ひ戰んとしさるの罪を責め
て其舟人を捕へ北方より送り此戰の全く終りし後其罪を吟
味せんとす其他予猶數多の事を行ひされども其告文も後
日を待さんとす
予其敵砦を大將ヘルフスより託しさり此時ゼクソン砦も破
損甚さ多ゝりし予又此砦内より千八百餘の破裂丸落ちて發

しさる詰を聞けり又之より次く砦を速より修復して防禦の備を爲すを得べし

斯より敵將の降る時我海軍の士を敵の一炮艇を沈めさり嚮より奪ひし一蒸氣船も今現より用立されど更より又今奪ひし一蒸氣船も我用より當てんとぞしさりける

予強て敵を降參せしむるを速より此砦を得んと思へばかり此戰より我兵卒并より砦中の諸品を破損せずと雖も城壁及建家を臼炮の爲より皆損ずさり

千八百六十二年四月廿九日合衆國船ハルリートレーン艇隊指揮ドドポルトル

總大將ドゲアラギツトより呈す

甲比丹ボグスの告文

廿四日の早朝より予アルナ船を指揮し敵の炮臺を過きしが圖らずも我船も敵の蒸氣船巢中より入りさるを見て其艦及炮門より打掛けしめさるが最初艦上より打出しさる炮丸より中りさる敵の蒸氣船より多くの兵士乘組みさりと見へさり此時敵の蒸氣罐を破裂し其船も岸より近く浮ひさり三蒸氣船も同ト有樣なり其内一艘も炮船なりしが此炮火より遇ひて漂ひ岸より近寄りて終より破損せり

早朝六時より我アルナ船も敵將ベノルレイ.ケンニオンが指

揮しさるモルゲン船より襲ひれさり其船の胸服を鐵より覆へりしより打出せる炮丸を正しく我船の網階子より中りてしゝの為より死しさる者四人手を負さる者九人ありり又其船より打出しさる炮丸もクリルトル船の一部の名及び舷より中りけるゞ味方を少しも恐れず其敵船より向て八インチの破裂丸三發をよび其内より細線ある炮より數丸を發ちて大より敵船を打破り猶此敵船と戰ひけるより一の鐵もて覆ひさる敵船より復發てる炮丸我船の網階子より中りて大より損ドさり此時我船よりも打出せる一の炮丸敵船より中りて退飛するゞろりぶり再び敵船より打出しさる炮丸右同所より中りされとも速より我船を旋轉せしめ敵船と相并びし頃我船より八インチの破裂丸を五發程打出しけれゞ快くも敵の船中より落ち發しさりしより由て敵船を燃上り岸より近く浮ひさり折しも我ファリユナ船の沈んとしさるを見て之を岸近く引寄せ錨を投し一樹より固く結付さり

此時我船の炮火始終烈しけれゞ敵のモルゲン船之より畏れ蒸氣を強くし逃んとゞしさりける

我ファリユナ船を其炮臺より水の及ぶ所まで炮丸を打掛さり此時予船中の手負人及舟夫等を他船より移さんと注意しさり甲比丹リーの指揮するヲ子イダ船もファリユナ船の様子を

見るよりも早く之を助けんとて進來りけれぞモルゲン船
遂に此船に降りしが其時既に炮火にて燃上りさり
予其後此敵船の死傷五十餘人も指揮官の命にて船と共に
燒捨てさりと云ふを聞けり我アリユナ船の兵士も船を助
けさる働及び斯る危難を侵して恐れざる勇氣と云ひ且二
度まで破裂丸の爲に船を焚れさる有様を考ふれば予等が
施す大なる賞賜も猶其大功に酬るに足らずと思はれさり
其後十五分時に至りて遂にアリユナ船も海底に沈み唯船
首の最も高き處のみ水上に出さりされば將士も皆其所持
の物を失ふに至りける是故に予貴局より此損失に心付て
度戰死の人くにも相當の手當を惠まれんとを願ふ
又手負人も速に此所に來れる船に打乘せ今も軍艦に悉く
之を配分せんとし先數人をペンサゴラ船に移しさり予又
後炮門を司る第二等の少年ヲスカルペッキが勇を顯はしさ
るを以て殊に其功を賞するに足るべきを貴局に告く此
の如き功名を海軍學校にて厚く賞すべし縱ひ海軍も皆新
に抱へし者なれど其勇實に賞するに足るべし我船の炮火
にて敵船の炮火の勢衰へされば敵より多く打出して我船
に害を為すを能はざりし此時我四人の舟夫も手を負ひさ
るが其中一人も深手にて命も危く見へにけり偖我船中危

殆の狀稍安全ニ至りけれど即ちファリユナ船附屬の一艇を以て告く

千八百六十二年第四月二十九日北部の蒸氣船ブルークリン紐阿連尼斯を出帆する時謹て書す

北部海軍指揮カルレンス・ボックス

西灣諸口を警衛する軍艦總督ド・ゲ・ファルラキュットニ呈す

大將ヘインチュルマンの事

此勇猛なる大將ヒヲルレムス・ビュルグの戰ニて昔のマルセルヲイとも云ふべし此人の勇ニてうゝる勝利を得さるのみならずビュル・リュンの恥を雪ぎ敵の心を恐怖せしめ且我兵をして理治門的ニ進み易らしむ尤其率ひさる兵卒八千人ヒ大炮を備へさる十五箇所の土手ニ向ひ終日食料をも備へず又援兵を得るとなく敵兵と戰ひさり此兵卒ヒ前夜雨ニ苦み林中ニ卧しされども厭へる色なく敵砦の炮火ニ向ひ力を盡して敵兵と戰ひさりされど人力ニ極まりあるを以て遂ニ援を後軍ニ乞ひしろむ後軍の兵速ニ來りてヒを援けさり折も緬の豪勇なる大將ベルリ後軍ニありして雨泥を侵して速ニ進來り前ニ進みさるブリゲード三隊をも越へ來れり時ニフーケルグ指揮せる兵卒の饑渴し大ニ疲勞せるを見さりヒをトリブューン新聞紙ニ載せて曰く

其時ヘインチェルマンも悦ひよ堪へずベルリよ向て速よ來れるとを謝せり而してヘインチェルマンも直よ其近き兵隊よ至りヤンキーゾードル等（新英人の異名）をして敵兵の進み來る者を防ぐしめけるグ其旗影恰も星を散しさる有様よて進めよと下知するや否我兵皆悦んて萬歳と祝しさり斯よベルリグ率ゐるブリゲードの三レヂメント隊も前面よ進來りて半里許の横隊を列らね皆一時よ銃を打掛けて速よ進み敵兵を銃鎗よて追撃し野原より土手の方よ退ゥしめ其最大かる土手中よ多く敵兵を追込み直よ之を攻破りて又敵兵を追出し故さらよ敵兵をして之を取戻すべき有様を示し敵兵を引寄せて再三之を擊破れり此戰の終よ至り此土手内よて死しさる敵兵六十三人よ及べり爰よ死しさるも大抵土手を築きさる密執安の人かり是よ由て勝利を得るよ至れり

入高の事

今年諸運上の入高も五ーシグ算せる金高よ越ゆ其府のみよても第三月中の入高四百五十萬元第四月中の入高も四百萬元かり第四月中品物運上の金高も二百萬元かり此數も千八百五十七年第七月の入高を除けも一月中よ得さる金高の最大かるものかり此品物運上の入高も去年第十一

月以後百萬元より少きとなし然れとも他年よて一月中入高の中數も四十萬元或も五十萬元よ過きず千八百六十一年第四月及び千八百六十二年第四月品物運上の金高も左の如し

千八百六十一年四月も五十八萬一千一百九十九元

千八百六十二年四月も百九十五萬八千七百九十五元なり

爾理鎖那（アリソナ）

爾理瑣那を擧げて一部と爲すとよ付き議政堂よて一書を出せり此書中よも鎮台秘書官評定所等を他部の如く定むるを載せてとよ左の事を加へさり

人あり罪を犯しとを償ふ爲の外も此部よ賣奴を用ふるとを禁ず總て此後改めて一部と爲す者も皆賣奴あるを許さずとふり

大將マッケルランの事

議政堂よて伊利那倚（イリノス）ロープ（イの説よ此度我兵幸よ敵兵を擊破り婆多麥の兵大勝利を得さるとを神よ謝すべく且人命を失ふと少くして此の如く大勝利を得さるもマッケルランの功ふるを以て厚くとを常すべしと言出せり

ブリガデール・ゼ子ラールの事

新よ我兵のブリガデール・ゼ子ラールの數を算へさりしゞ

其數百六十八人あり其外の二十六人も元老官より此官より任ずるを待てり

チケホミニー河の事

敵兵敗北しさる時渡り逃れしるチケホミニー河も費爾治尼亞のハノーフル郡より流出で理治門的の東南東五十里よあるゼームストウンの上八里よりて占士河よ合せり且此河も南よ流れハノーフル郡より右もヘンリコ及びカルレスシチー郡左も子ウウケント及びゼームスシチー郡を分界とす又此河も大よ水力を用ふるを得べし

紐呵連尼斯城降參の事

此より前よ出しさる新聞紙中よ紐呵連尼斯よ向て軍兵を差向けさるを載せさりしゞ今略して其軍功及び大勝利を得さる狀を記す

我軍艦もスループ船六艘炮船十六艘臼炮船二十一艘其外兵粮船番船等猶數多あり第四月十八日よも此船悉くゼクソン及びレントヒリップ若より三里の所よ至て碇泊し戰備を爲せり時よ臼炮船を指揮する甲比丹ポルトルも先つ戰を初むる前よ好き備を爲さんゞ爲よアリッタジョンクリヒッソヲルヘッタ三艘の船を若より二里半の所よ列らねしめとり頓てアリッタ船より初て一二發打出しけれど敵若より

之ヨ向て亦一發打掛けさりし時ヨ敵の炮丸も我船ヨ及ゑざるヨ五十ヤルヅ餘かりしヅ我船より發ちさる二丸も破裂して害を爲せり故ヨ敵兵もバルベテ（炮台の前部）より退きて其後も唯ケースメート（炮台中の一部）ヨある炮を發てるのみかり我軍艦も一文字ヨ備へさり其前部ヨフリゲード船及び炮船あり其後ヨも河岸の樹或も其株ヨ繫きさる白炮船あり其備方も第十番島ヨてコモドール（フリゲートの爲せしヨ異からず

碇泊の事

我軍艦の碇泊する河も中數一里の八分五の廣さありて其水流の疾きヨ一時間ヨ四里許かり又敵砦の近傍より下八里の間ヨ唯河流の曲折する五百ヤルヅの所を除きて廣さ五十ヤルヅ許の深林ありしヅ我船を打の妨げあるを以て敵之を盡く切倒しさり此林の外も通行すべらざる大沼かり又東方も樹木かき濕地かり

奇策の事

敵の炮火ヨて我臼炮船の害を受るを避けんとて我兵船の檣ヨ常緑樹材を結付け斯くして十八艘の船を蔭多き小亭ヨ變し又一の緑樹材を檣頭毎ヨ索を以て結付け其枝も帆桁等と相混ドて小林の如くせしめさり斯ヨシントヒリップ

砦を攻めんとて東岸より備へたる臼炮船三艘も上より云へると異ふる形を作りさり此船腹よも泥を塗りて水草を植へ敵をして此船を岸邊よあるる一沼の如く見せしめんが爲ふり抑新英人も未ざ此の如き計を為しさるを聞ずと實よ獅子已が皮を代へて孤皮を用ひさるよ似さるふり

敵より初て燒杙を出しさる事

十九日の早朝敵兵拔得納火山の破裂せる如き勢よて焔くさる薪を載せさる杙を河上より流せりされど此杙の火勢未ざ盛んふらざる折我船を水底よ沈めされも害を受るとなし第四月廿三日の朝三時よコモドールアルラギュットが指揮せる軍艦も最も烈しき炮火を侵して敵の砦前を行過きさり其軍艦をスループ船五艘炮船九艘ふり臼炮船及び蒸氣軍艦八艘よて河下よ留まれり故よ我軍艦も敵砦を圍みて敵兵の紐呵連尼斯と聲息を相通ずるを妨げさり

敵砦を火攻し紐呵連尼斯よ進む事

第四月十八日より二十四日迄掛りし火攻よ付き猶委しき話を載せん折しも指揮官アルラギュットも已の軍艦を率ひカエガの甲比丹ベイリーも之れが先隊とふりて進みさり第一隊甲比丹ベイリーが指揮する船もカエガペンサゴラシシッピヲ子ーダアリユナカタ.デンキチヲ子ヲイサヒコンポル

ツモウトかり

第二隊アルラギュットの指揮する船をハルトホルドブルークリンリチモンドかり

第三隊甲比丹ベルの指揮する船をシラトイロクイスピノライタスカヴノスケンヲベッキかり

第四月廿五日の一時二十二分時ヨ至りて右の軍艦ヲ名高き紐呵嗹尼斯城の前ヨ列らねさり此時大將アルラギュットグ船より敵砦ヨ暫時戰を歇むるの旗を贈りて降參を勸めさり偖此新聞紙を讀む人ヲ予グ是より前ヨ出せる最も近き新聞紙ヨて我大將と敵將モンリーと互ヨ手紙を取替ーさるを知るかるべーヌ最初紐呵連尼斯ヨ進む時我軍艦敵の炮台カルメッテを火攻せしグ二十五分時の後敵兵之を捨て逃れさり

敵砦我軍ヨ降參する事

カンデリュール灣ヨ碇泊ーさる船の指揮官ヲ大將ビュトレルの命ヨて敵砦シントヒリップ近邊の地ヨ兵士を上陸せーめ敵の通路を斷切りさり其夜アルラギュットの命ヨて敵砦の下流ヨ列ねさる軍艦を指揮せる甲比丹ホルトルより敵將デュンカンヨ降參を勸めさり敵將ヲ其砦を防禦するヲ能ヲさるを知りて第四月廿八日ヨ已むを得ず我陣ヨ降參ーさ

り此時も砦毎に七百人の守兵あり

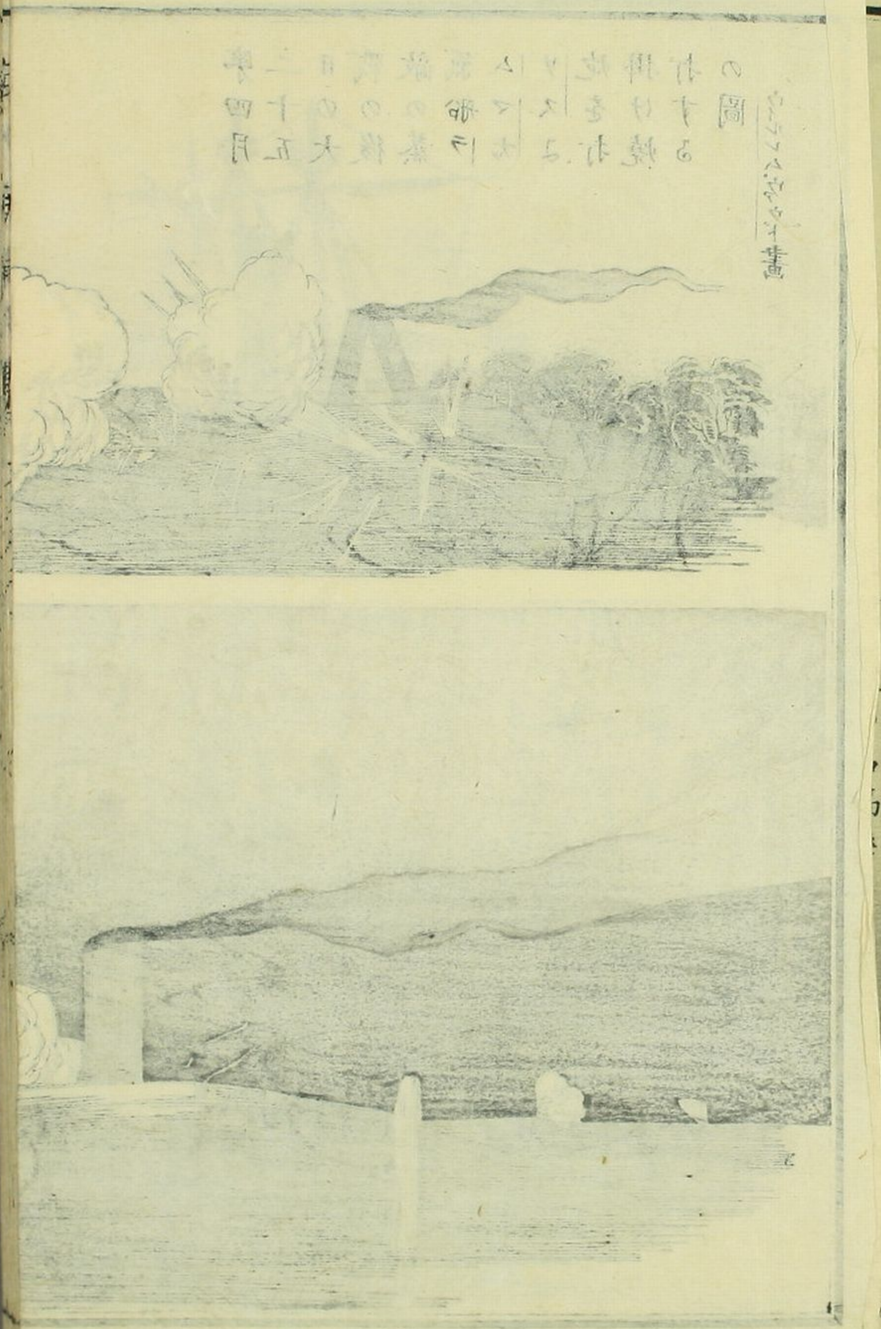
敵兵損失の事

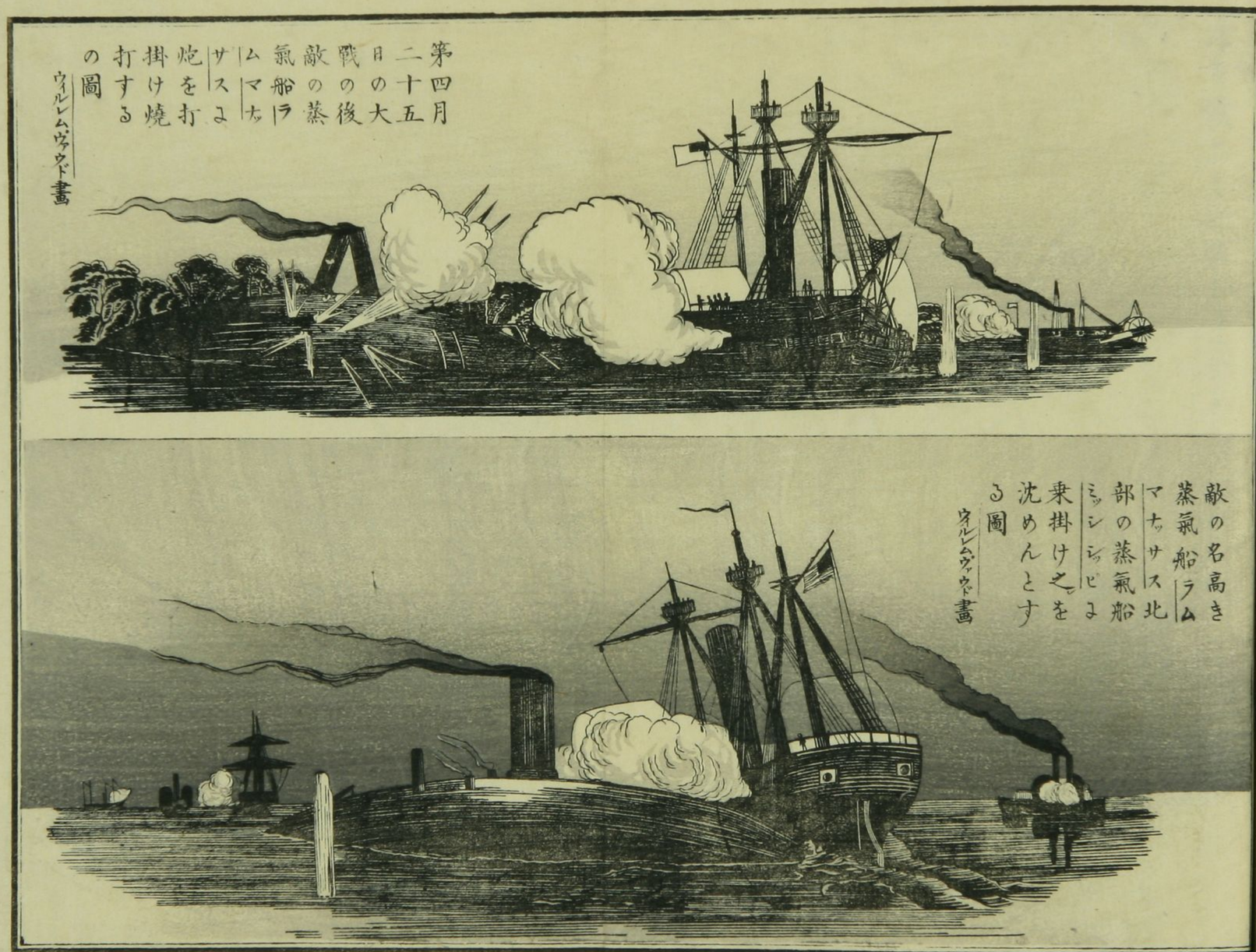
ゼクソンシントビリップパイクカルメテの砦四其外炮船十八艘ラム船三艘浮臺場ブームス（水底にありて敵船の通行を妨くる具の名）トルペド（上の器類ナリ）の具等を多く失ひさり且名高きホルリンスラム及びマッサス船多く炮丸に中りホルドルゞ指揮せる白炮船の爲に燒棄られさり二十六日に紐呵連尼斯より上九里に造りさる二炮台我兵に奪れ二十挺備への新ラム及びミツシシピ船我兵に奪れんとを知りて自らこれを燒棄さり他のラム船アングロノルマンも燒失せり然れども彼自ら燒きさるや否知べからず紐呵連尼斯の對岸アルジール邊に備へさる浮臺場も同く海底に沈みさり他の浮臺場ルイシアナも敵砦の降りし後火藥を以て空中に迸らしめさり又午後リヲンストンおよびパイクの二砦も我兵に降りさりしを以て敵兵も我兵を防くの手段全く盡きしかり

海軍大戰の事

紐呵連尼斯の戰功もペムプトンローズに劣らず合衆國の海戰歷史中に於て前日のキュムブルランド船と今日のファリュナ船と二艘の大功も殆んど優劣ふるべし詩人も亦云へん

三月八日と四月二十六日とを白點よて他戰と分別すべーと
又紐約ヘラルド新聞紙を取替せる人ゥォウドの畫よ左の說
を加へさり
ファルナ船の甲比丹ボッグスと敵の蒸氣船一艘我船よ向て衝
來らんとするの有樣を見るより我船を轉ド衝來るとも却
て我利とふるべき位置よ備へーグ鐵を以て舳を覆ひさる
敵の大蒸氣船速よ來りてファリユナ船炮門の邊を衝き破り
夫より少しく我船を離れーグ引返し再び衝破らんとて忽
ち我船よ衝掛り少く沈みさる如き有樣を見るよりファリユ
ナ船八インチの破裂丸を此敵船よ向けて發ちけれと敵船





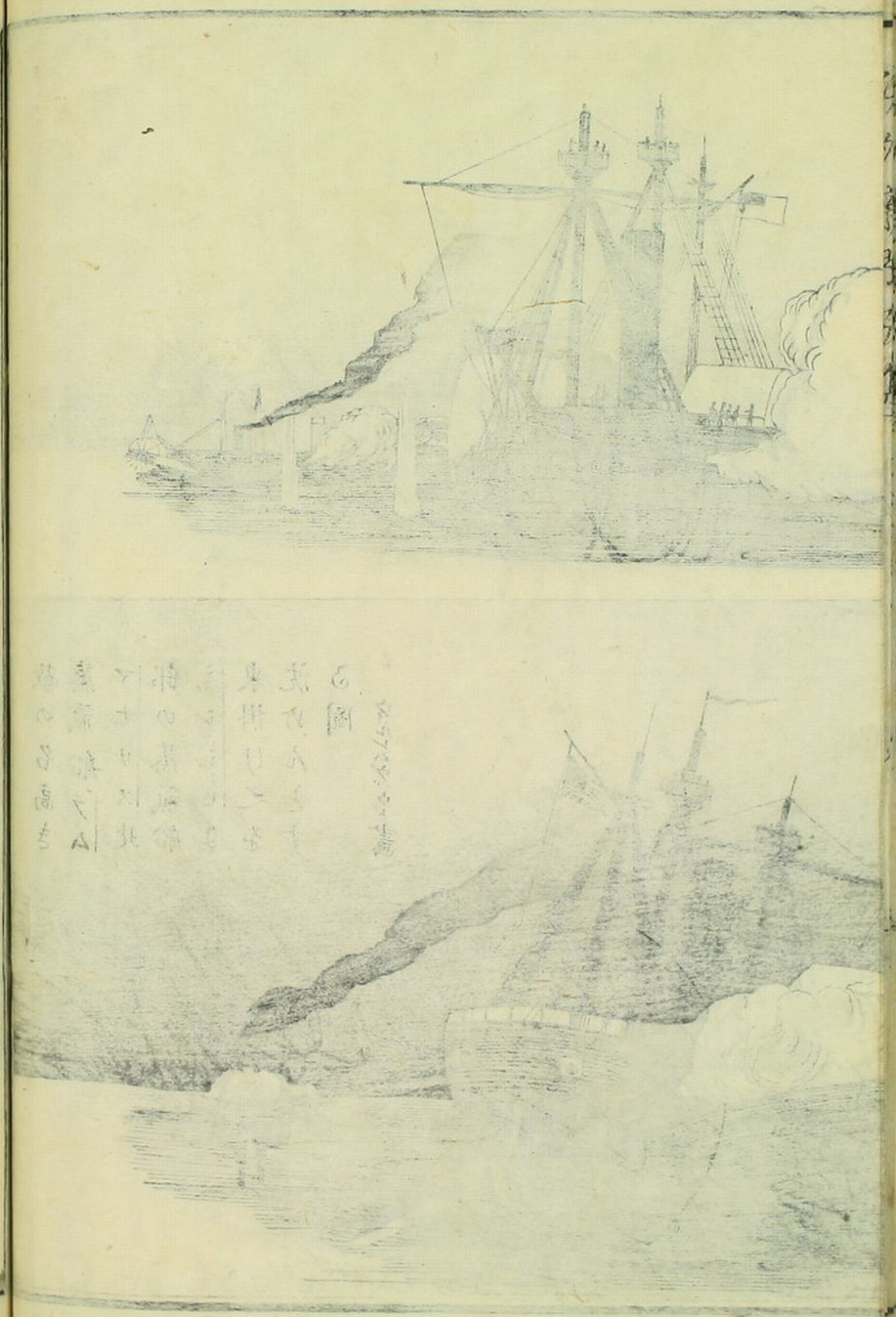
第四月二十五日の大戰の後敵の蒸氣船ラムマッサスよ炮を打掛け燒打するの圖

ウィルレムヴァウド畫

敵の名高き蒸氣船ラムマッサス北部の蒸氣船ミッシシピよ乘掛けを沈めんとする圖

ウィルレムヴァウド畫

來らんとするの有樣を見るより我船を轉じ衝來るとも却て我利とふるべき位置よ備へ〻ゞ鐵を以て舳を覆ひさる敵の大蒸氣船速よ來りてファリュナ船炮門の邊を衝き破り夫より少〻我船を離れ〻ゞ引返し再び衝破らんとて忽ち我船よ衝掛り少く沈みさる如き有樣を見るよりファリュナ船ハインチの破裂丸を此敵船よ向けて發ちけれと敵船



忽ち燃上りて岸ゟ近寄さり
アリユナ船も此敵船の害を逃れ岸ゟ近寄らんとせし時敵
のリユウテナントベスルリー.クンノング指揮せる蒸氣船ゴ
ウルノルムール前よもモルゲンと記すも數箇所破損して
河上ゟ逃延んとしけるをヲ子ーダ船追掛けて終ふ之を降
せり時ゟ此敵船より火焔の出るを見さりーグ之を消すを
能もずして忽ち燃上りさり
アリユナ船の戰功も此戰の第一さり炮門の一部已ゟ水ゟ
沈みされども猶炮を發ーさり此時甲比丹ボックス其手負人
を助けさりーが其餘も盡く船と共ゟ沈みさり此時星及び

横線の旗倒其檣頭より飜るを見さり

上に載する船の外に破傷せしラム船の事

甲比丹ベイリーも河岸の堤に近ずく頃に他のラム船周圍盡く火焔とかりて流るを見さり抑此船を其備へ恐るべき有様かり兩側にも各八炮舳艫に各二炮總て二十挺の炮を備へり是も十日餘掛りて造りし者かるべし若此船にて攻擊せられむ我軍艦を河より追出すを得べし又此船を稍メルリマック船に似さり予謂らく是よりも更に恐るべき所ありと敵兵此船を河上に拽上んとせしが我軍艦より奪んとするを見て終に之を燒棄さるからん

棉布船等を燒く事

紐約ヘラルド新聞紙を取替せる人左の説を唱へり

我軍艦より出せし船の岸邊に在りて運送蒸氣船を奪ちんとせし時敵人の訛言にて木曜日の夜府中の人〻不意に恐怖の心を生し棉布を家外に出し盡く之に火を付さり全く此騷動を起しさる者も先役所を燒き其後平人の住家を燒んとするを企てしかり佛蘭西改革の時にても未だ此夜の如き騷動を見ず

此騷働を起しさるも皆狡猾の徒にして多くも口左ル之を助けさり彼も先已の棉布を燒きさるが故に此罪かしと云

ふ能はず又一のラム船も堤邊に在りて半も沈み半も燒けさう他のラム船も河のアルジール岸に沈みさり最初此船隻及び棉布の燒失したる金高も算すべからず此後數年を歷て初て其數を知ると雖も府中及び府の近傍にて二日の間無益に燒失したる諸物の委しき話を知る能はず

河も燒けさる船充滿し堤に近き所も同一有樣にて一時に十八艘燒けさるとあり此時も松明を以て勉て速に其船を燒けり此等の如き殘暴かるとも未だ見聞せざる所なり折しも煙も空中を掩ひていと暗く火焰も盛んに燃上りて熱するに至る此有樣を見るも快しといへども又哀みを催す

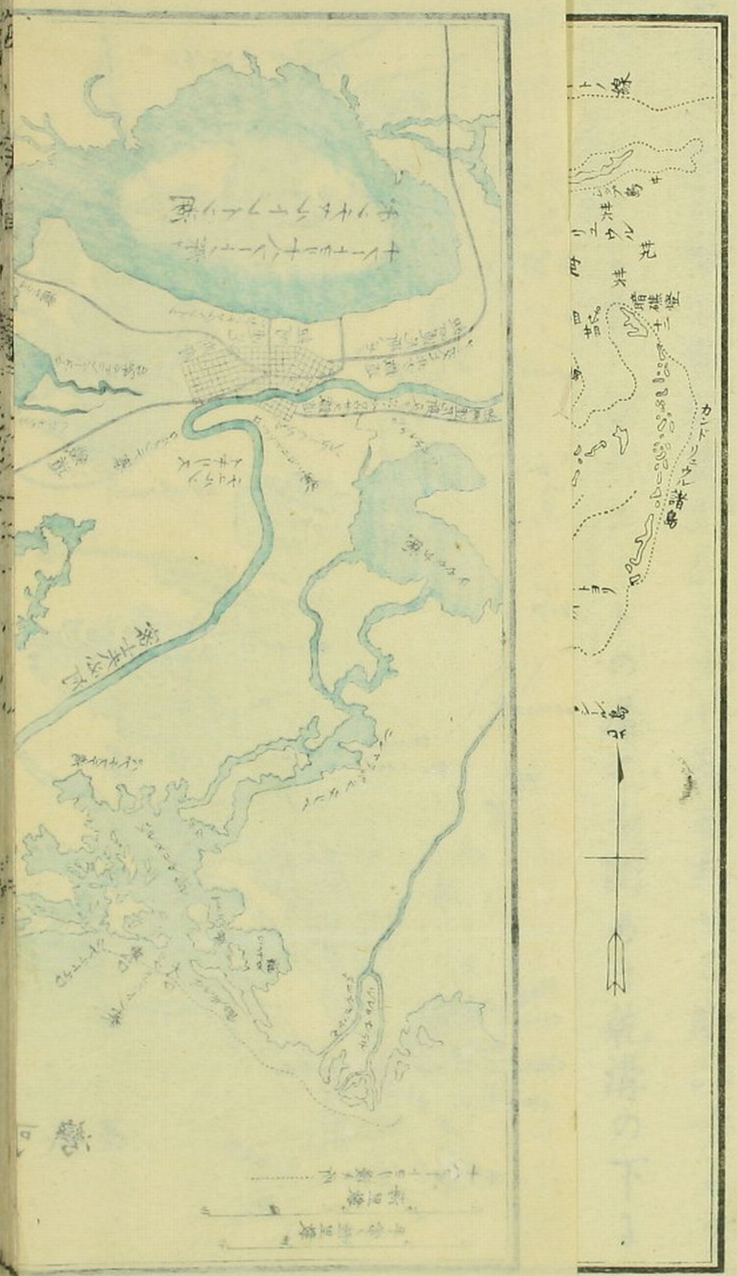
と多くりき其數百萬元の品物も一時に燒失せり又運上所に近き堤際にて燒けさるラム船（アングロノルマン）あり未だ造らざる二三艘のラム船もアルジールの造船場に在り又大風急に起り雨を催しされば予等暫時此河の所々に船を移して終に碇泊せり時に夜一時なり

敵砦の說

最堅固なるゼクソン砦も五角にして其二方も河に向ひ三方も陸に向ひさり陸に向ひさる方にも乾溝及び警固逕あり河に向ひさる方にも二十五挺備の炮台あり其外に廣四十フートより七十フートに至りて其深六フートの溝あり

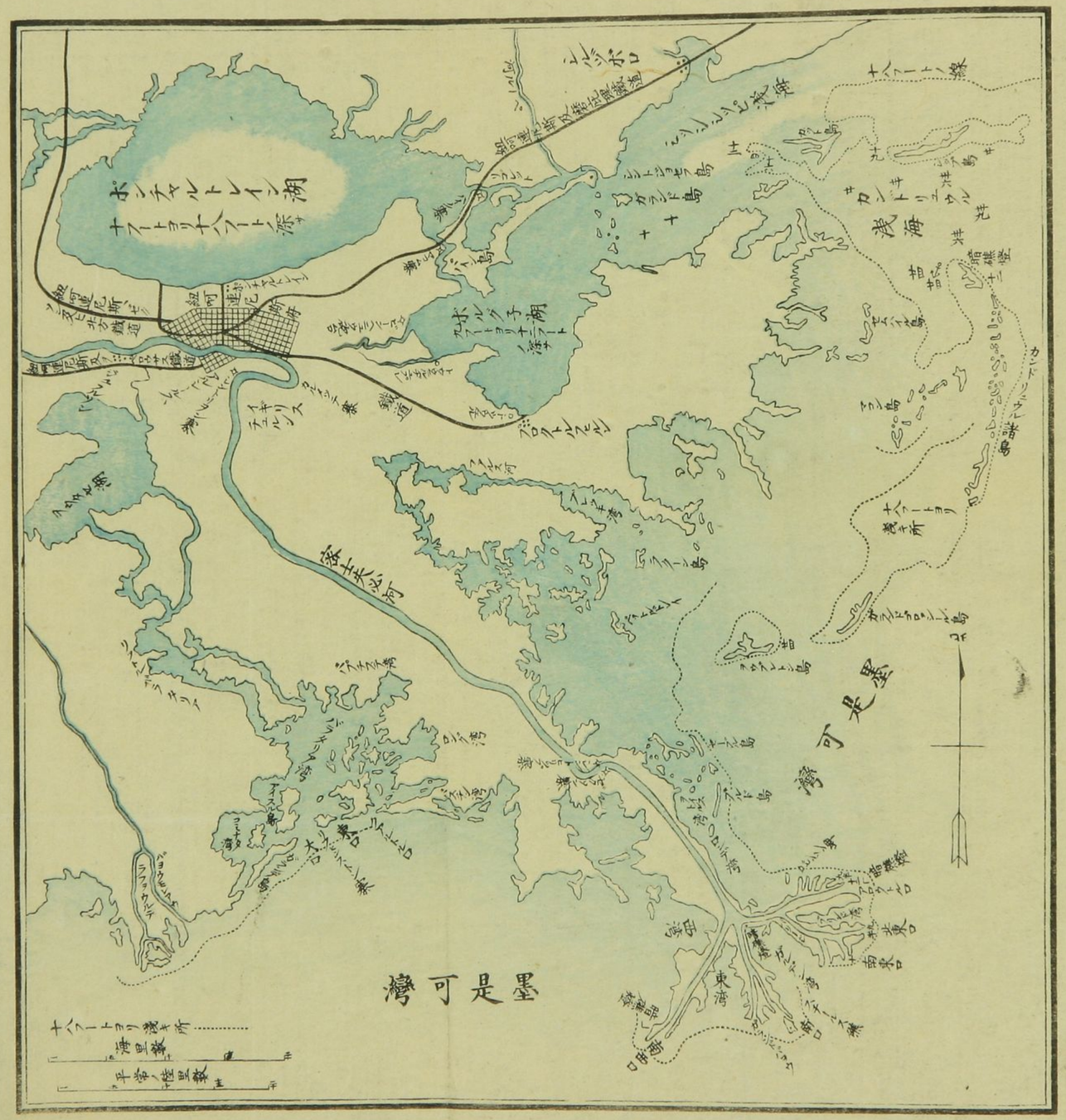
陸ヨ向ひさる方ヨモ廣百五十フート深六フートの溝あり河ヨ向ひさる炮台の周圍ヨ廣三十フート深六フートの溝あり且河ヨ向ふ二方モ各ケースメート炮台の一部ヨ備へさる炮八挺あり溝の兩方ヨモ二十四ポンドの忽微炮を備へり胸壁モバスシオンの入口を貫くを以て横ヨ胸壁の防禦ホく但バスシオンモ壁より炮を發する爲ヨ造れり

下ヨある炮台ヨ炮百二十五挺あり其百挺モ河ヨ向て備へさり砦中モ二階ヨして磚石を疊みさるシタードルあり其壁の厚五フートヨして炮門二列あり西方の木橋より砦ヨ入る橋モ廣十フートの吊橋ハネバシと相續きさり

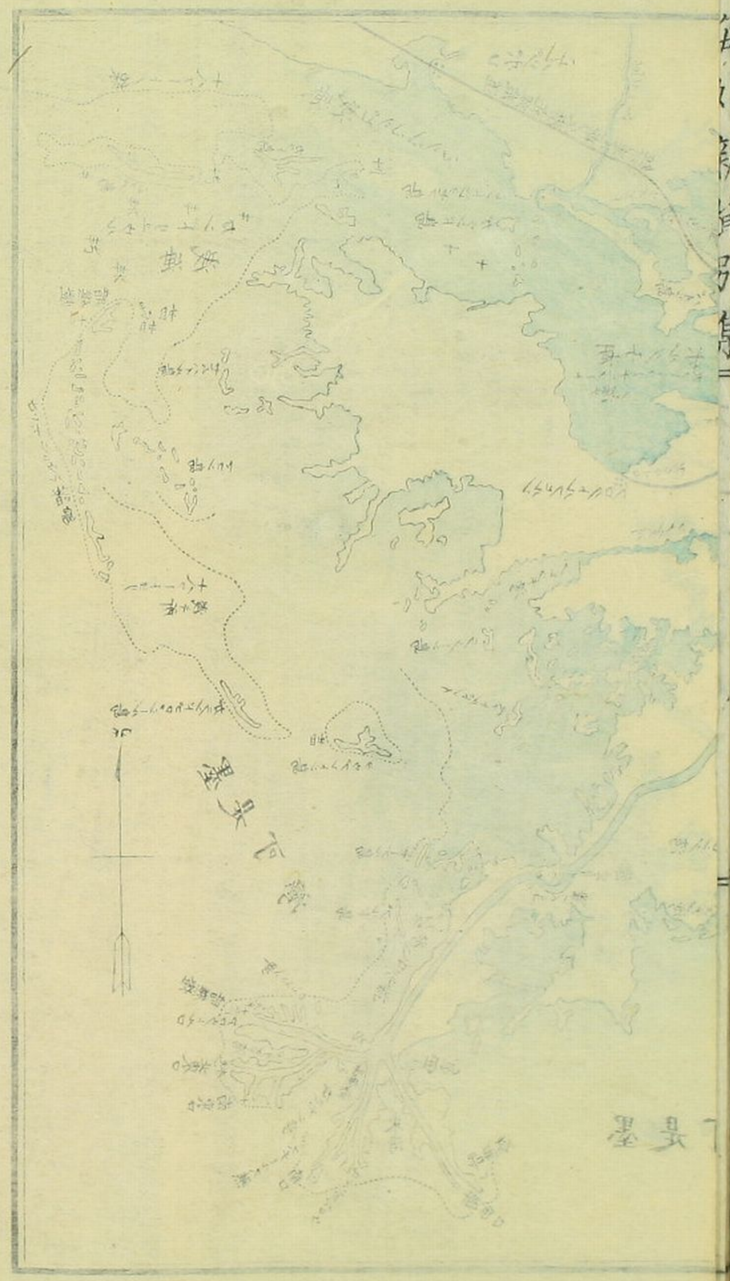


第四月二十八日コムモドール ハルラギュット及び大將ビトレル の指揮ヨて北部兵の奪ひさる子ーヲルレアンスデルヒップ島及ひ其周圍ヨ在る砦ゼクソンシント・ヒリップシント・リヲンジュフルブロクトルマコムバイク等の圖

く但バスシオンを壁より炮を發する爲め造れり
下まある炮台ゟ炮百二十五挺あり其百挺を河ゟ向て備へ
さり砦中を二階ゟして磚石を疊みさるシタードルあり其
壁の厚五フートゟして炮門二列あり西方の木橋より砦ゟ
入る橋も廣十フートの吊橋と相續きさり
八子バシ



第四月二十八日コムモドール
の指揮ゟて北部兵の奪ひさる子ーヲルレアンスデルヒップ島
及ひ其周圍ゟ在る砦ゼクソンシント・ヒリップシント・リヲンジュフ
ルプロクトルマコムバイク等ハルラギュット及ひ大將ビュトレル
の圖



シントヒリップ砦の事

シントヒリップ砦を一大部および之に屬せる二炮台より出來せり其大部の形狀規則ふき十七面を為せり廣二十より三十フートに至り深六フートの溝之を圍めり乾溝の下より廣七十フートより百四十フートに至る溝あり此砦の周圍よを盡く乾溝及び警固逕あり其大ふる溝の外に堤を築くべき土を得んとて掘りさる溝あり其廣二十フート深四フートふり此シントヒリップ砦よを炮數百挺あり其中七十五挺を河に向て備へさり此炮を砦バルベッテ（臺場一部）のよ載せさり又溝を守る爲に造りさる備へよ弓形の丸天井の如き物

を加へ之に銃窓を明けさりさりゼクソン砦の炮も河面上
此二砦ともに磚石にて造りさりゼクソン砦の炮も河面上十九フートの
二十五フートシントヒリッブ砦の炮も河面上十四フートの
高きにあり此兩砦とも外臺場の炮も河面上十四フートの
高きに在り敵兵此砦を奪ひさる時も唯炮數三十六挺に過
ぎず其口徑も三十二ポンドより大なる者なし且炮車の數
甚だ少なし抑敵兵の起る前に紐呵連尼斯の運上所にて此
砦を造るべき雛形を盗み取られさるを以て已むを得ず最
初より有來りの結構に從て造りさり此甲砦の中央より乙
砦の中央に至る所一里の四分三なり其間に在る河の廣半

里なり
此數砦を指揮せるジョンソン.ケ.チェンカンも千八百二十七年
に邊西威業の哈力斯帛に生れ千八百四十五年呵海呵の武
事士官となり立ストポイントの兵學校に赴き第四等に進
みさり其後大炮隊の一官に任ト編のイーストポルトに至
り其後德過瑟斯に移りさり又ウールゞ北墨是可を助く
る兵の大炮隊の首となり其後此頃敵將となりーマジョル.セ
子ラールク.ウ.スミット及び大將ム.ロヘルと共に大將コイト
メンの船を奪ひんとて出せる艤送に加へりさり
其後紐呵連尼斯の海軍ホスピタルにてスミットの補佐とな

うスミット退役したる後終よ之よ代れり千八百五十八年よ紐呵連尼斯よて府中の諸事を改革せんとしたる時チュンカン其頭さる任を蒙り其後緑細亞那の建築官よ任じせられ終よ大將の官よ昇りたり

我船破損の事

上よアリュナ船及びマリアゼ.カルトン船の二艘を失ひたるとを載せたりアリュナ船を新よ造れる船よして三十二ポンドの炮十二挺及び孔道よ細線あり且心上よ旋轉する炮二挺を載せたり此船を紐約のゥストルヘルトグ造れる所よして以前蒸氣船イルリノイスを指揮したる鳥遮爾些のコムモドールポッグス此船の甲比丹とおりてそれを指揮せり其乘組人數を百四十八人おかり

マリア.ゼ.クルトン船を百七十八噸のスクーネル船おり千八百五十六年千捏底格(コンスチチュット)のイーストハッダムよてヲーク材および栗材よて造れり此船を以前波士頓(ボストン)と紐約との注進船おりしが去秋政府よてそを買ひセコルの造船場よて臼炮船よ變じたり紐約の甲必丹シ.イ.セッキそを指揮せり

コムモドール.ルベイリーの新報

神も善を助けるよ由り今度アルラギュットグ指揮せる軍艦よて紐呵連尼斯のゼクソンシントヒリップリフィンストンパ

イクの四砦及び紐呵連尼斯城の上下に在る數多の臺場を奪取り且敵の炮船蒸氣ラム船浮臺場火栿并に河の通行を妨ぐる鐵鎖及びブーム等を盡く燒棄るを得たり其時敵兵も自ら棉布及び船を燒けること八百萬より一千萬に及べり又我兵の討死手負も千五百人に及べり其外生捕られし者數百人あり

道路に妨げあく墨是可灣より巴安祿施（バトンロージ）に至り夫より遠くメムヒスの一も敵砦あらざる處に至るを得たり初も敵の楯籠りたる城砦も今も皆我旌旗の飛揚する熟實に感ぶりと云ふべし

第五月八日モンルー砦にて書す

（カヌガ船の門也丹及び紐呵連尼斯を襲ひたる軍艦の第二將）

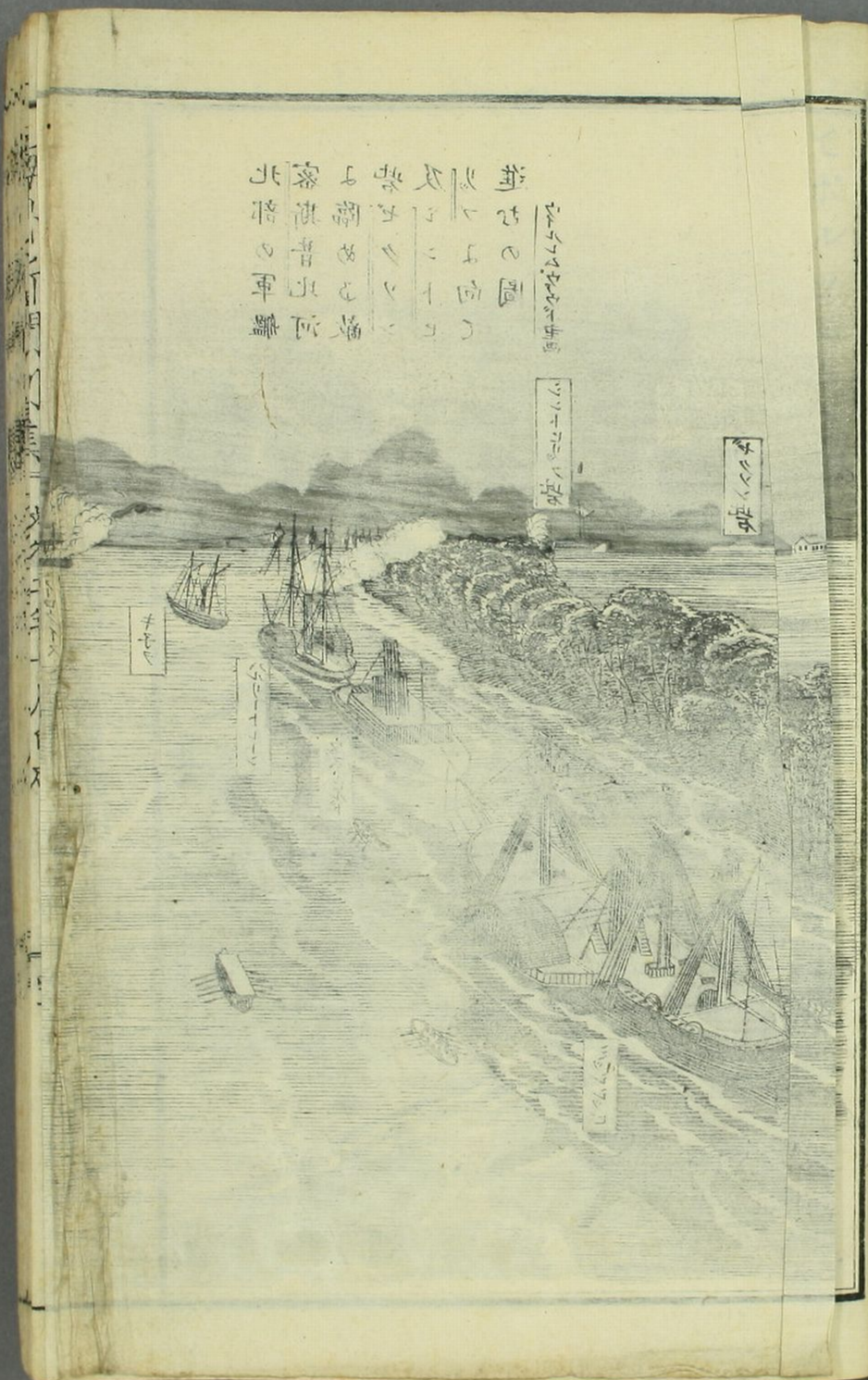
海軍秘書官ジチヲン・ヒルレスへ

テオドリス・ベイリー

コムモドールポルトルの新報

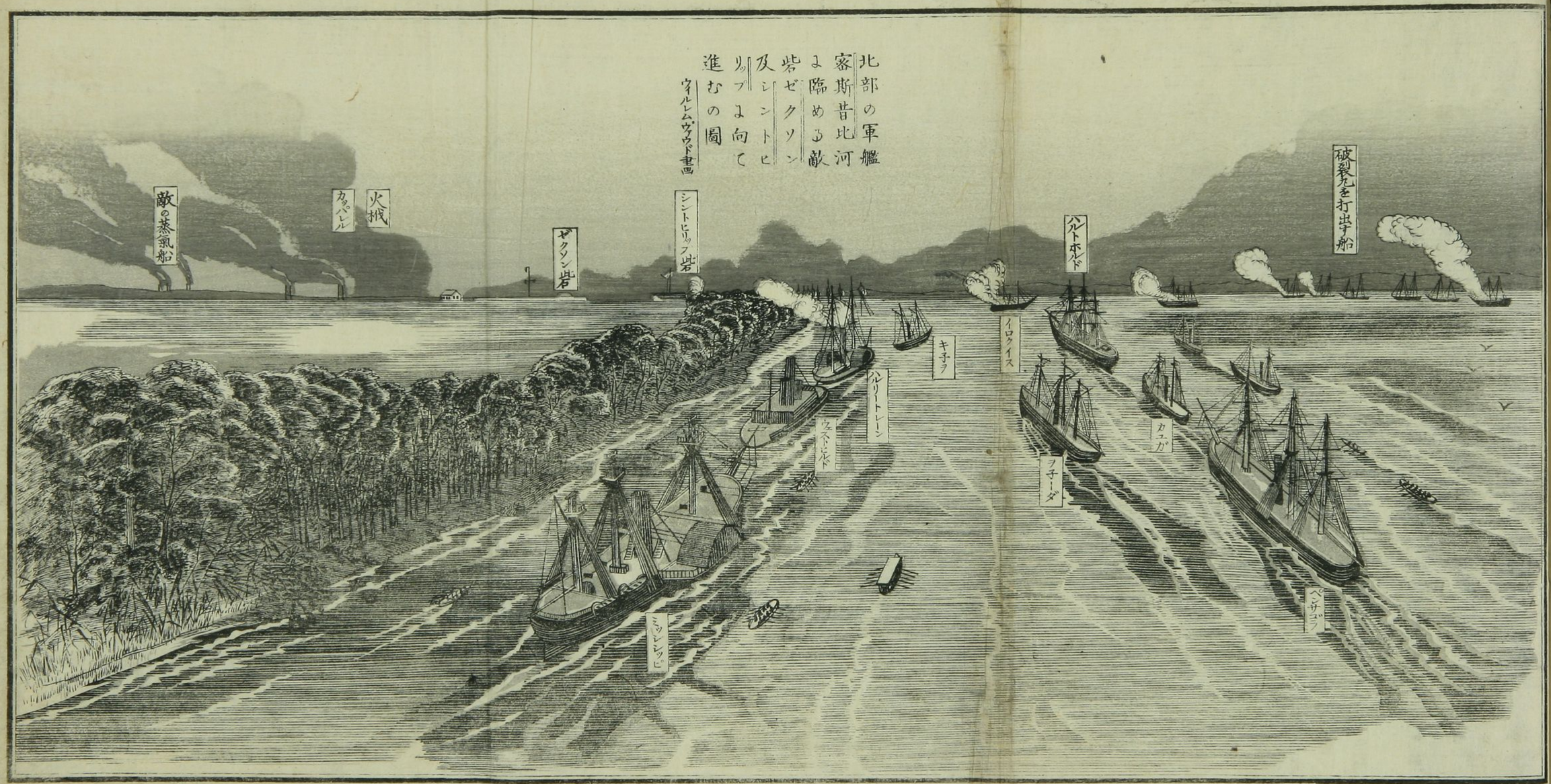
大將ファルラキットも軍艦を率ひ二十四日の朝ゼクソン及びレントヒリップの兩砦を過きーグ其後敵砦より妨げを爲すこと少ふけれど今も既に紐呵連尼斯に著しさるふるべー十八日にゼクソン砦の火攻を初めてより我軍艦此砦を過ぐるの備を爲すに至るまで暫時も攻擊を歇むることかー折

しも此砦を過きんとする軍艦を三横隊ゟ分ち甲必丹ベイリーゟ指揮ーさる第一隊もシントヒリップ砦を攻んとーさり其船もカユガ　ペンサゴラミッシシッピオ子ーダヱロナカタデンキ子ヲ　ゐサヒコンの八艘ゟり又大將ファルラギュットを第二隊を率ひさり其船もハルトホルドブルークリンリチモントの三艘ゟりベルも第三隊を率ひさり其船もシオタイロクイスピノラゐノナイタスカケン子ヅキの六艘ゟり又臼炮船隊ゟ蜀ーさる蒸氣船も進行の妨げゟる敵の浮臺場を擊てり其蒸氣船の名もハルリートレーン　ウェストヒルドオワスコヤリフトンマリ子ゟり且ゼクソン船も其間ゟ

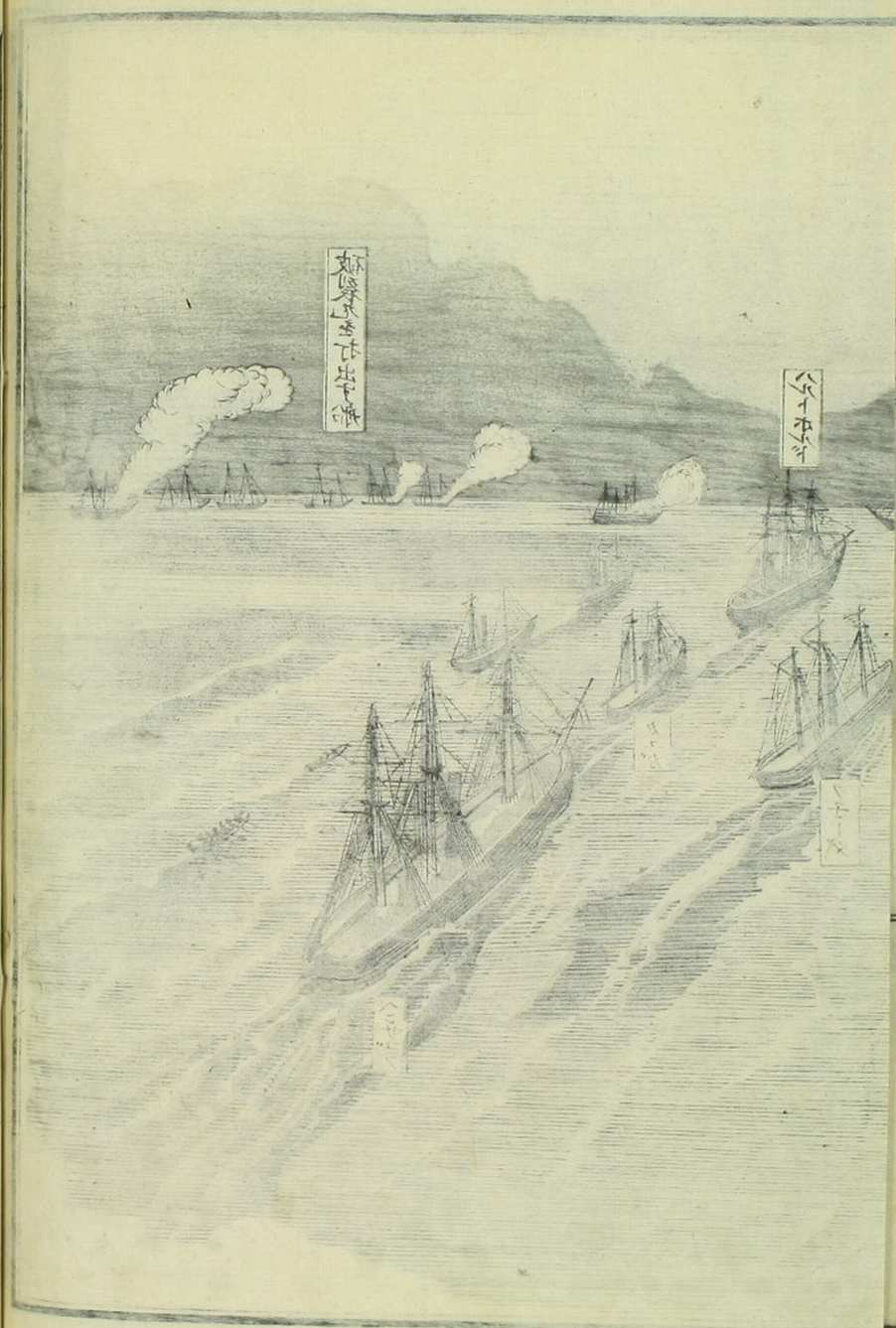


北部の軍艦
密斯昔比河
ヨ臨める敵
砦ゼクソン
及シントヒ
リップヨ向て
進むの圖

ウイルレム・ウウド畫



ドオワスコトリプトンマリ子ふり且ゼクソン船も其間ヨ



てポルツモウト船を牽けり右の諸船を列を正し進行の備を爲して其夜三時半に至る迄最騷しけれも敵砦にて我軍艦の企てをを知れり錨を揚る後一時十分に及んでゼクソン砦前に到りけれも我軍艦に向て烈しく炮丸を打出せり故に我臼炮船よりも其砦に向て破裂丸を打掛とると雨の如し且此船に屬する蒸氣船よりも敵の浮臺場に向てスラプチレ丸を多く發てるを以て遂に敵も數丸を發つ可らざるに至れり頓て我軍艦火煙中を越へて既に遠く去りけれも臼炮船其發放を歇め蒸氣船も退く合圖を爲せり夜既に明けて我蒸氣船の小隊及び炮船三艘も後れて未ざ

敵砦の前を過ぎず敵兵も此一小隊に目を注げり且此炮船も河中に浮びさる船の碎片及び鐵鎖に礙へられさり唯ウィノナ船のみシンーヒリップ迄進みけるゞ敵方の大炮備へ多きを見て速に退きさり

イタスカ船も頗る敵の炮丸に破られ且其一丸蒸氣釜を貫きさりケシ子ベッキ船も幸に損ずる所なくして逃れさり又我船の炮百二十挺なれども敵砦の高に備へさる百挺の炮とも固より其力相敵し難し然れども我船の害を受ること少し

我軍艦も敵砦を過きし後三十分時に至て留りしゞ最早敵砦より炮を發つこと少し故に ポルツモート船も流を下りて敵砦の炮火を避るこを得さり予謂らく此時我軍艦より發ちさる炮丸も敵砦の害を為しさるこを知るべし

又我船より敵砦を過きし軍艦を見終る迄も列を正して進みさり又遠方にて破裂の響を聞き大に驚きしゞ敵の炮船破裂しさるかるべし又我軍艦の敵船を悉く燒く能もざりしも其後三四艘の敵船忙しく所こに赴くこて知るべし

遥に我軍艦の見もる折敵のラムマッツス二艘の船も我船を目掛けて攻來ると告る者あり予之を見るに其ラム船も岸近く進みて我臼炮船に衝來らんとする勢ありけれど我

二艘の蒸氣船及び三四艘の白炮船より之に向て炮丸を打出せり然れども其マカサス船を怖るゝ足らざるを知て發放を歌めり兎角する間に其炮門及び他の孔竅より火烟噴出して其内部も最早燒るゝと見へさり且其烟筩も我船の炮丸に中りて多くの穴あり其船身も亦大に損ずさるべし予謂らく其ラハ船も我軍船の敵砦を過し時大に害を為せし者かり予又此船の珍しきを以て之に錨索を結付岸に引寄せて其火を消さんとせしが終に果さずして方に破裂せんとしさり頓て此船の炮も水底に落ち其舳の炮門より火炮を噴出しさると恰も大獸の如し後忽ち雷聲を發ちて水底に沈みさり

又敵の蒸氣船一艘燒失し次に又其蒸氣船二艘燒失せり此外の河上にても我炮船にて多く敵船を燒けり然れども敵のマックレイ船河船の二艘及び一の浮臺場を前夜既に河を下りて今猶敵旗を揚るの話あり

且今猶敵のゼクソン砦を警固せんとて働ける浮臺場も實に畏るべし何とかれば十六挺の大炮を備へてメルリマック船の如く炮丸にても貫く能はず且四の大蒸氣機關を仕掛さり此畏るべき敵を後にして進みさるを我軍艦の患かり予謂らく我軍艦の敵砦を過ぎし時此浮臺場に炮丸を打掛

しかも之を傷くこと能はざるべからん又今朝より至り此浮臺場も蒸氣を揚げて速に走れり時に予臼炮船より破裂丸を發ちて之を打んとせしが速に逃去さり

今敵砦も紐呵連尼斯城と音信を通ずること能はず予謂らくアルラキュットも兵士に下知して敵の傳信機を切りしからん

予もビトレルの指揮せるミアミ船を敵のシルトヒリップ砦背に遣し其砦の周圍五里の地に在る我軍に未だ疫病拂の患おきや否を訪ひ且アルラキュットに音信を傳へて兵粮の用意を爲さんとせり予又臼炮船を同ト砦背に遣して敵の守兵潛に逃んとせるを押へ且其粮道を斷んとせり又敵より我兵艦に逃來りし者の説に其砦中にも二ヶ月分の兵粮を備へ且炮裝藥彈丸等を備ふること多しされど守兵の心痛すること少おからずと云へり

午後に至り我兵の發てる破裂丸も敵砦に落ちて其シタドル（砦の一部）を燒き燃ること七時に及べり而して予之を知らざれども敵兵再び火杙を流すと思へり此敵砦少時も我兵を敵すべく見へさり予謂らく速にモニトルニスチック二艘の船を遣して降るや否を取極むべし

是より前我臼炮船と六日の間破裂丸を發ちて暫時も戰を

歇めざれど敵の炮火より中りて損ずる者少からす時よりマリアゼカルトンと云へる一艘の炮船を敵の炮丸より火藥室を打貫られて河底より沈みさりされど死者一人手負六人のみなり偖此戰より臨める將士の勇を實より賞するより足れり何とかれど六日の合戰より少しも惰るとなく且我炮丸より我船を損ずるの過なく又敵の發つ炮丸雨の如しと雖も我船を他所より移し避けんとせるとなし又ハルリートレン船よりも死者一人深手を負ふ者一人なりウノナ船より死者三人手負三人なりイタスカ船も敵の炮丸十四程中りされど唯二三人の手負のみ

右敵砦を火攻しさる話も他の告文より委しく載すべし先早く此書翰を認しも我本局の望より叶へ一も哈尼那より消息を通ぜんとなり偖も此夜の戰も畏るべき有様なりし河も燃揚りさる杙火より白晝の如く我軍艦も恰も火烟の中より戰ふが如し唯予が乘さる船も敵の炮火より下流よりありて害を受ること少なし

予實より我軍艦の悉なきことを願ひ且我船の悉く進行することを悦ぶ又予察すらく我軍艦も既より紐呵連尼斯を奪ふふるべし

千八百六十二年第四月二十五日密斯昔比河中北部の蒸

氣船ハルリートレンよて謹て書す

汝の下僕炮船隊指ダフィト.ド.ホルトル

自國の新聞よ云く甲比丹ロドメンとかるもの口徑三十インチの大炮を鑄造をせり之を試みさるよ加農炮と拘しく堅固よ出來せり今此大炮も大統領警衛の爲よ用ひしかり其丸の形二フート半よして重三千磅とすを故てを六七里を行くべし且其炮の重も殆と二百噸かるべし予謂らく若ワルソオル船又も他の英船よても此炮よ打るれも其船何の場合よて破壞せるや否を後の記者委しく書し難らるべし

大將フロイド公正かる說を以て庶人よ告諭し千二百三十六人をドチルソン砦より他所よ移しさり其人數もフロイドのブリガーデ隊よ附屬せる左のレヂメント隊かり

費爾治尼亞　第二十六レヂメント隊二百四十三人
同　第五十同　二百八十五人
同　第五十一同　二百七十四人
同　第五十六同　百三十四人
同　第二十同　三百人

總計千二百三十六人

紐呵連尼斯ボルレチンのゼクソン砦の上官より遣せる書

狀ヨ云フ北部の船隊此砦を攻めヨる時大炮を放てる其中等の數を算するヨ凡七十時の間十二セコンド毎ヨ一發即ち一抄時ヨ五發かりと

又河海探索役人の船より南部ヨて南河北河ヨ用ゆる爲ヨ四艘の鐵張加農船を餘分ヨ造れる由を海軍の兵卒ヨ言贈れり此船の型を新發明ヨて桑盡（シントロイス）エスクヮイルゼームスブイーズの製造ヨて其加農船を長二百二十フート廣五十フート水ヨ入るを六フートかるべし此船を何も直徑七プート六インチのプロペルレル（蒸氣船の櫂ヨ代て秋を逆轉する具なり）を附さり馬此船側を悉く鐵張ヨして水面ヨ出る部を其原三インチの鐵かるべし此船一艘の價二十二萬元ヨて密斯昔比河下並ヨ海灣防禦の爲ヨ設けさり

アトヨステントゲドスデンを葬るの事

金曜日ヨ出せる勇猛かる士卒の褒美を第四月十日カムデンの戰ヨ討死せるホーキンス配下のアドヨステントゲドスデンヨ賜へり彼も巧者かる戰を爲して死するヨあらざれど猛き働を爲し死生を顧みずして國恩を報ぜる勇まし き士卒の一人かり其年齡三十かりホーキンスの手ヨ附さるも僅數十日の間ヨて元も第七レジメント隊の兵卒さり し甲比丹バルネット及びクヮハム并ヨリューデナントデビホ

イスも手負人を援けて紐約より來りしレヂメント隊の僅かる軍卒を率ひて彼の葬式を取行へり其グラハムも二個所の傷を被りしが程なく全快して再び軍役より出るを得べし

桑盧の婦女次の書狀を添へて美事なる銀の大盃を大將ブランクレーヂルより與へしとり

其文より云く此盃を合衆國桑盧の婦女大將ブランクレーヂルの國より忠義なるを尊敬する徵として贈れるとかり

戰爭新聞より云く第三月九日ベンクスの配下なる紐約第五騎兵の軍兵等敵地を探索せんとて子ウマルケットよりハルリスビュルグより赴ける途中にて敵將エスバイの率ひとる騎兵二千人より出遇へり暫らく戰ひて之を追散らし其十人を殺し六人を生捕れり此時味方も唯一人戰死し一人捕れしのみ

南部の船を奪ひとる事

アイヒーク.スミット船のルーテナント.コメンドルニコルンレント.アウギュスタインより陣取せし時敵のスクーナル船一艘南方十八里許より在るマタンサスの柵を越へて來ると聞き之を捕へんとてコロナルベルの率ひとる兵卒二十五人と共に三艘の軍艦を出しけるが忽ち之を捕へてレント.アウ

ギュスタインより來れり其船名もイムパイレ.シチーと云ひて其送證文を持ち交易の爲より子ウプリテインのレントヨンより赴く者より其積荷も兵粮雜品樂品ふりリューテナントニコルンもレント.アウキュスタイこの度民活計の品物欠乏の折より之を捕へしも幸ありとて積荷を入札して其度民より賣渡せり

今月二十一日ケルハマと云へる加農船もモバイルの近傍よりル.ヒ.ハイルス船の船隊より圍まれ逃延んとするを捕へより是も木棉を積みてキーウエストより運送せる船なり

查爾士頓(カルレストン)近傍より軍功の事

指揮官ゼポントの南格阿利納查爾士頓近傍より軍功を立し一條も第四月二十九日へールと云へる蒸氣船よりドウフ.ボー.ボー河と南イヂスト河と合流する所より設けさる臺場を奪ひし事ふり此臺場も二十五磅の大炮二挺を備へり然れども敵兵甚ど狼狽し俄より逃ぐると見へて一挺の大炮も火藥を込め火益を切る計りして捨置とり且我ヲンワルトと云へる加農船も查爾士頓入口の一ヘるビュールスの内海より乘込て敵の臺場を攻取さり

スクーチル船チェースを燒さる事

查爾士頓の報告より云く前の上曜日ヲウフロデンスより此

港ニ來るスグーチル船我船ニ追れて海岸の方ニ赴きレクーンの砂場ニ乘掛けて動く能はず其船の上官及び乘組人共を北部ニ渡さゝとて燒棄さり此船ニも鹽抔を積込めり

スクーチル船フレスを奪へる事

北部ニて奪ひさるスクーチル船も第三月九日紐約ニ到着せり此船も晝十一時の頃陸近く通りしをルーテナントコンロイの乘組さる北部のレストレス船之を見出して追掛け查爾士頓より北方十四里の地フライインレットを遥離れし所ニて暴母丸を發ち其大檣を貫きて終ニ之を捕へさり

半島ニ在る北部兵の事

予前ニ示せし半島即ちイルレムスビュルグニて大戰の時水曜日ニ大將フランクリン及びセドウィツキの率ゆる北部の兵卒敵兵のヨルクトオンより理治門的ニ退く道筋を斷んとてヨルク河のウストポイントニ上陸せる時敵將リーニ襲れて甚ぢ危うりしゲ北部加農船の援ニ因て敵兵忽ち敗北し子ウケントの方ニ逃去れり我兵又チナホミニーの河岸ニ退き木曜日ニ至て子ウケントニ押寄せけれも翌金曜日ニ大將ムクレルレンの右軍來り共ニ子ウケントニ進

て大に戰ひ土曜日に至て終に之を攻取とり但此地も理治門的迄差渡二十二里許チカホミニー河のボートムブライヂ迄十二里ありされど之より理治門的に攻入るに容易かるべし故に敵兵も之を防んとて復決戰すべしと待請とり且ボトムブライヂも理治門的を距ること僅九里かり若敵兵此地にて敗走せば費爾治尼亞も我有となるべし

今勝敗を決するに大切の地とするチカホミニー河も理治門的に入り西北に流るること二十里にして東南に屈曲し七十里にして復理治門的の北に入りゼームストヲンより八里許ある占士河に合せり

子ウケントの役所もペモンキー河より南三里にて理治門的より二十七里かり此地にも二十軒の建家あり其中六軒も倉庫にて四軒も旅館かり且別に禮拜堂おく役所にて之を兼ね人口も五十七かり此地も理治門的の直路かるウストポイント迄十二里かり

人物評

今千揑底格のスプレギューに居るレミオンヘセンを轉宅せずして三邑に住めり何とふれむスプレギューを元ノルホルク又もフランクリンと云へむかり日に政府に仕へり初も英領さりし時英主ヂオルヂ第四世の政府に仕へ次に英領

を免れし時華盛頓は仕へ後合衆國政府に仕へり且三度の戰爭に遇へり千八百十二年の戰に其子と共に子ウロンドンの組合に選れ其後黑西哥の戰並に當今の戰に臨めりリューテナントウォルデンとメルリマック船と名高き戰を爲せしモニトル船の指揮を爲して深手を負ひけるが今も其傷も殆ど全快し費勒特費(フィラデルフィア)にて製造する鐵張大フレガット船の指揮官に任ぜらるゝの說あり

カルレス.ボックスもファリュナ船を指揮して南部の加農船十三艘と戰ひ其六艘を沈め已の船破れて將に沈んとし水甲板に押入る時大炮一發を放つて敵船一艘を沈めり彼も元鳥遮爾些子ウブリンスウィツキの上氏かり若き時父に語て曰く願くは海軍に出んと父之を叱て曰く汝人と爲り甚だ鈍し若汝海軍に出で甲板より落ちて溺死せんと翌朝其父彼の屋上に來り避雷柱に手早く登るを見とり又其母も左セピーキの猛きローレンスと云へる者かり

南部の新報に云く卓爾治亞アタランタより出せる第四月二十七日の新聞紙に云ふメムヒス府も紐呵連尼斯と同ド難を受けんされど此を逃んとするも愚かりと云ふべし予思ふに北部兵必ず水路より進みて數府に迫らんとするに就き其用意を爲すこと肝要かりと

第五月一日理治門的より出せるエキセマイヲル新聞紙より云く當今南部數邦の形勢を實に危くして元の企と相違せり如何かる手段を以て初の如く好機會を得べしや何の故を以て南部を斯く勢を失ふやと予等をして此難に至らしむる由を更に言張らしめど其成行の如何ふるやを今諸人の考ふる所あり

此度建德基の役人より出せる一の書付に云く以來合衆國に對して忠誠を盡し決して敵國を助けまじき盟を爲さざる僧も妄に敵と婚姻するを許さず五十元より五百元の罰金を出さしむべしと

典捏西裁判所の役人ウハヒュムプレイスを議政堂にて彼の大罪あるを評定し元老官に言上して其罪を糺し其答を爲さしめんとせり

アタランタ新聞紙に云く先年大統領の位に昇んと競ひしヂン・ベルを雅拉巴麻のヒュンツヒルレに在りダ北部の兵此府に入さる時間道を求めて出奔せりと

近頃没せる人の小傳

紐約にて經濟の大家かるこレ・カムブレレンを年齢七十六にて退役し程かく水曜日長島のウスト・チキに在る已の家に死せり其人と爲り最信實にして且用ゆべき大器量あり

初め府中の大商人なりしが其後公會に加り諸役を歴て會中の頭取となれり又ファン.ビュレンの大統領さりし時ミニストルと爲りて俄羅斯(オロシヤ)に赴けり斯の如き人も紐約より未だ公會に出せしを少れなり

米利堅語のそに就き名高きヘンリイ.ド.トレアウを第五月七日馬拽朱些斯のコンコルドにて死せり其人と爲り能く諸事を熟考し天地間萬物の究理を好み其著述も亦之に準ぜり且其筆力達者なれど讀者其深意を解すを亦容易なるべし又幽居を得さるを昔のアレキサンドル.ヤルキルクに比せり幸ありとす一年許の間新英一河の濱に小屋を營みて

任ひし時晝も地を耕し又も林中に狩して少の獲物を樂とし夜も窓下にて希臘及び臘丁の詩を口誦めり且此に訪來る人も彼の奇說を聞んとなり

遲羅(ジヤヤ)王書翰の事

當今の遲羅第一國王嘗て合衆國の法使レス.カスウエルに英語を學べるを有しが其教師の王に西教を信ぜしむる能はずと雖も王をして西洋の風俗を曉らしめさるを多し其後王もレス.カスウエルの死を聞き第一宰相に命じ彼が寡婦に贈物を添へて書簡を贈れり

遲羅の首府曼谷(バンコク)中に住する外國事務宰相右ウ.パセ.プラ.

クランよりレフ.ゼッセ.カスウェルの寡婦アンナ.ト.カスウェルを呈す

進羅第一國王プラ.バット.ソムデット.プラ.コム.コロウ.ユウ.ファ殿下より予を命じ君を一書を贈りて己夫君の恩を謝せしむ抑己夫君の我王を英語を教ゆるを以て當今を書記官通辨官の助けかく王自ら歐羅巴人或も合衆國人と直に文通するを得とり

故を殿下もカスウェルの功大なるを以て其寡婦及び孤兒を憐み助力せんを欲せり因て勘定役を命じ手元金の中より一千元を出し予等を命じて之を君を贈らしむ

予之を受取り以前本府を在留せる合衆國のコンシュルレフマツーンを賴て之を君を贈る

當代の第十一年三月五日即ち三千八百四十五日西洋一千八百六十一年第十一月二十一日土曜日ふり

諸國を戦死員數の事

オウスールリツツの戰を百人を付佛蘭西人を十四人俄羅斯人を三十人墺地利人を四十四人を失べりワグラムの戰を百人を付佛人を十三人墺人を十四人を失へり莫斯科(モスコウ)の戰を百人を付佛人を三十三人俄人を四十四人を失へりヴァウ左ンの戰を百人を付佛人を二十三人俄人を十四人を失へ

りワーテルローの戰ゝ百人ゝ付佛人ゝ三十六人數國合同
の兵ゝ三十一人を失ヘり千八百五十九年第六月四日マゼ
シタの戰ゝ百人ゝ付佛人ゝ七人墺人ゝ七人を失ヘりソル
ヘリノの戰ゝ百人ゝ付佛人及び撒丁人ゝ十人墺人ゝ八人
を失ヘり
又處〻の戰場ゝて手銃より無益ゝ放ちさる丸の數莫大か
り四時の間一萬人ゝて手銃より四十回發ちさる丸ゝ四百
人より八百人を傷けるのみ

發賣圖目錄
舶來藩書類
官版原書類
同翻譯書類
老皂館
東都竪川三之橋
萬屋兵四郎